静岡県博物館協会　研究紀要　第45号

静岡県博物館協会　研究紀要　第45号

研究紀要

令和3年度
第45号



静岡県博物館協会

静岡県博物館協会

研究紀要

第45号／令和3年度

表紙／浜松市美術館「みほとけのキセキ」より
ガチンコ対談「静岡のみほとけ−東へ西へ−」の様子

目　次

02	静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8	立花 義彰
24	地域の文化財の価値と魅力を広げ深める 展覧会事業の具現 −「みほとけのキセキ−遠州・三河の寺宝展−」の 「展示」と「広報」の事例から−	浜松市美術館　島口 直弥
32	板谷房　パリの18年、画風の変遷	駿府博物館　森下 善彦
36	突撃！となりのミュージアム！ −「学芸員同士でインタビューし合ってみた」篇−（報告）	浜松市美術館 （静岡県博物館協会事業推進グループ） 島口 直弥
38	2021年度　静岡県博物館協会　役員会、総会、事業報告	
40	静岡県博物館協会 研究紀要投稿規程	

編集・発行
静岡県博物館協会（事務局）
〒422-8002　静岡市駿河区谷田53-2
静岡県立美術館内
電 話・054-263-5857　FAX・054-263-5742

デザイン　有限会社 サイズ
発行日　2022年（令和4年）3月31日
印刷　有限会社 橋本印刷所

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

立花 義彰

戦前の県美術協会展・戦後の県展に関しては、諸著述で触れられてこなかった様々な出来事が存在する。1973（昭和48）年秋の県展での出来事もその一つである。

読売新聞がスクープとして、現場を図入りで詳細に報道したこの“事件”は、審査で落選の決まった作品を、実行委員でもある地元画家たちが、当の審査員らには全く無断で入選にし展示するという、組織的かつ意図的な不正を疑われても致し方ない－“手違い”との弁明もあるが－驚愕すべき出来事であり、1970（昭和45）年“死亡届”事件で幻触グループ他が糾弾した県展の「私物化」「密室性」が図らずも証明された形となった。

伊藤勉は、その年の美術界を回顧する地元紙初の記事「美術の主体性考える」（静岡12/13）で、これに触れた。副題の「原初に立ち返れ！県美展」には疑問が残る。伊藤の指摘する県展問題が“反面教師的”に「美術の主体性を、その在り方を原初に立って考えさせることを知らせた意義」での“原初”を曖昧化させており、「当初から本質的には何ら美術の情況に抵抗もなく，在るがままに成るがままに運営」と批判する伊藤の全体の論旨にそぐわない。伊藤がロールズの言う原初状態と言いたかったのかはさておき、立ち返るべき理想的な時代があったかのような誤解を生む言い回しの副題からは、当初からの弊習を脱し切れない県展・県内画壇旧勢力への地元紙としての忖度が透けて見える。

なお伊藤の文章の後半は、市川正三、鈴木慶則、斉藤真一らの名を挙げるとともに、清水市内に美術評論家針生一郎を招いての「針生ゼミ」の活動を「“美術する思考”を根本的にほり返している」として紹介している。

今日振り返って見ると、年末恒例となるこの県内美術界回顧記事は、県展問題に誘発された感があるのだが、稿者なりに補足して述べるならば、県内美術界にあっては、1970（昭和45）年の第13回安井賞展に作品《無言譜》で佳作賞を受賞した市川正三が、抜きん出た存在であり、1972（昭和47）年7月の今日の美術・清水－日韓交流－展は、海外現代美術の地域間での相互交流として着目すべき活動であったと言えよう。

美術館、博物館等の展示施設に関して言及するならば、1973（昭和48）年5月の富士美術館の開館は、県下ではこれまでには見られない大規模施設の登場であった。ベルナール・ビュフェ美術館、登呂博物館の開館、三保文化ランドの開園、またオイルショックによる狂乱物価、絵画ブームとその突然の終焉もこの時期の出来事である。

さらに今日の視点から、新聞の広告面にまで視野を広げ見てみると、その時代の思潮を垣間見れ興味深い。静岡新聞社編『わが青春』（1973・昭和48年刊）の広告（静岡新聞8月21日付等）には、何故かロダンの作品《考える人》の写真が使われている。これはその後の県立美術館ロダン館の建設を予見しているかのようである。この本は、静岡新聞連載の同題の寄稿をまとめたもので、静岡県知事となる斉藤滋与史の青春回顧も載る。彼は後に県立美術館へロダンの《考える人》を寄贈する事となる斉藤了英の実弟に当る。先のビュフェ美術館を作った駿河銀行の岡野喜一郎は、斉藤了英と沼津中学の同期である。しかし、戦中派の彼らが、如何にしてまたどれ程、美術館の理念なり実像を理解し得ていたのかは、今日的には疑問が残る。

関連し付け加えるならば、静岡西武百貨店でも1973（昭和48）年の2月に ロダン・ブールデル・マイヨール展が巡回されている。日本国内での近代西洋彫刻への関心の高まりに押され、東京の現代彫刻センターは、昭和50年代以降フランスのロダン財団と提携し日本国内への新技法による没後鋳造作品展示販売の仲介者となった。

これら県内政財界及び県外での出来事は、「郷土の画人」の著者である晩年の中川雄太郎、ましてや若き日の稿者にとっての大きな関心事ではなく、それらの史的意義などは思い至る術もないことであったのかもしれない。更に述べれば、本稿もまた地元紙の表層的な展覧会紹介記事・行事案内欄に依拠しており、自ずから限界を有するが、今後の研究の深化、史資料の発見により新たな省察の得られる事を期待し、拙編を編み続ける言い訳としたい。

1972　昭和47年

1/ 1　山口源《初日》（沼津朝日1/1）

1/ 2　雄翔会日本画展於静岡松坂屋（-13）。（朝日伊豆岳南，静岡，遠州版S46.12/26）

1/ 3　還ってくる沖縄文化展於浜松松菱（-9）。（中日遠州版S46.12/20,21,22,23,25,26,27,28,29,S47.1/3,4，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/1）

1/ 4　静岡市民愛蔵美術展於於静岡松坂屋（-9）。（静岡1/3,5,9，毎日東，中，西部版1/1,6，中部版1/6，読売静岡版1/1,6）

1/ 4　山下清の美術展於静岡松坂屋（-9），於浜松松菱（18-23）。（静岡S46.12/24,31,S47.1/3,5,8,9,13,19,20,21，毎日東，中，西部版1/1，読売静岡版1/1，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/22）

1/　池田正司展於県立中央図書館（-20）。（中日駿遠版1/6）

1/ 5　松本長十郎喜寿記念回顧展於浜松市美術館（-9）。（毎日西部版1/6，静岡1/8）

1/　見城春男個展於静岡谷島屋書店（-12）。（読売静岡版1/8，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/9，静岡1/10）

1/ 7　高木吉武「五風十雨」（読売静岡版1/7）

1/ 8　中村正也アフリカヌード写真映像展於新静岡センター（-16）。（読売静岡版1/1,8，静岡1/7,8,13，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/9,15，毎日中部版1/12）

1/　大石春夫油絵個展於静岡清水銀行鷹匠町支店（-20）。（朝日静岡，遠州版1/9，静岡1/10，毎日東，中，西部版1/18）

1/ 8　大石麗峰画展於県民会館（-14）。（静岡1/13，読売静岡版1/9）

1/10　沢村美佐子個展於東京ギャラリー・オカベ（-29）。

1/10　望月清作油絵個展於静岡幸文堂（-15）。（読売静岡版1/13，静岡1/13，清美協no.92）

1/15　立木義浩近作展於沼津西武（-26）。（毎日東部版1/25）

1/15　並木義治近作絵画展於静岡駿府画廊（-19）。（朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/9，静岡1/13,17）

1/18　あおの会展於県民会館（-23）。（静岡1/13,20）

1/18　在外浮世絵名作展於静岡松坂屋（-23）。（中日静岡，遠州版1/12,17,18,19,20，静岡1/13,17,20，読売静岡版1/15,21，毎日東，中，西部版1/22，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/18,22）

1/19　「人生の師細井画伯」（中日駿遠版1/19）

1/20　山下充展於東京日動画廊（-31）。（朝日1/26）

1/　太田京子書展於静岡松坂屋（-28）。（朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/23，静岡1/24,27，読売静岡1/27）

1/25　江崎武男個展於浜松市美術館（-30）。（静岡1/27，毎日東部版1/18，中，西部版1/25，朝日遠州版1/27）

1/27　吉野啓子油絵展於清水戸田書店（-2/2）。（朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/23，静岡1/27，清美協no.92）

1/28　沼津チャーチル会10周年記念会於沼津西武。（沼津毎日1/13,29，毎日東部版11/18）

1/29　田米孝雄作陶展於静岡松坂屋（-2/4）。（静岡1/27,2/3，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/30）

2/ 1　井上市三郎作品展於浜松市美術館（-6）。（朝日伊豆岳南，静岡，遠州版1/26，静岡1/27,2/3，毎日東部版2/1）

2/　平川信子個展於静岡扇子屋（-10）。（読売静岡版2/4，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版2/6，静岡2/7）

2/　安田酔竹新作展於静岡松坂屋（-6）。（静岡2/3）

2/　杉山有個展於島田市民会館・温知洞（-6）。（静岡2/3）

2/ 3　裴吉基作品展於沼津ギャラリーほさか（-8）。（沼津朝日1/14,29,2/3，毎日東部版1/25,2/4）

2/ 4　池田満寿夫版画展於浜松西武（-9）。（静岡2/3）

2/ 5　末光利夫二科金賞受賞記念展於沼津富士急天心画廊（-10）。（沼津朝日2/1，朝日伊豆岳南版2/5,6）

2/ 5　岩田栄次郎，弥富家族三代四人展於小山町立児童館（-29）。（読売静岡版2/3，毎日東中西部版2/19）

2/　土橋妙子日本画展於静岡松坂屋（-11）。（静岡2/3,7）

2/　佐藤道功個展於富士宮江戸屋パーラー（-14）。（静岡2/10）

2/11　江崎武男個展於静岡新聞別館（-15）。（静岡2/10,14,14，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版2/13，読売静岡版2/15）

2/11　中山昌代個展於静岡扇子屋（-20）。（毎日東，中，西部版2/8，読売静岡版2/8,15，静岡2/10,17，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版2/13）

2/12　杉村孝石彫展於静岡松坂屋（-18）。（静岡2/10,14）

2/12　斉藤寿一銅版画展於浜松ナカムラ画廊（-18）。（読売静岡版2/8，朝日伊豆岳南，静岡，遠州版2/11,13，静岡2/15,17）

2/14　市川正三・松井豊・長宗希佳三人展於東京昭和画廊(-19)。(朝日2/12)
2/16　杉山良雄展於県民会館(-27)。(静岡2/10,17,24)
2/17　ミニ・ゴヤ展於清水戸田書店(-27)。(静岡2/13,読売静岡版2/15)
2/17　百人の美術市於静岡田中屋(-21)。広野殷生他。(静岡2/16,17,19,朝日伊豆岳南,静岡版2/17,毎日東,中部版2/27)
2/18　清水現代美術セミナー第18回於清水市中央公民館。講師:李禹煥。(静岡2/18)
2/　帖佐美行彫金作品設置於磐田市民ホール。(静岡2/22,読売静岡版3/2)
2/25　頓宮隆輔展於浜松ギャラリー花菱(-3/2)。(朝日遠州版2/25,静岡2/25)
2/26　藤本東一良展於東京日動サロン(-3/5)。(朝日2/23,東京3/3,日経3/3)
2/26　針生ゼミ第1回於県民会館。
2/28　石子順造「まがいものの文化考」(静岡2/28)
2/28　「浜松市美術館への注文」(中日遠州版2/28)
2/28　滝沢清展於島田市民会館(-3/1)。(静岡2/28)
2/　広野殷生逝去。55歳。(美術年鑑S.48,読売静岡版3/7)
3/ 1　前田守一版画展於京都ハンドクラフトセンター(-6)。
3/ 1　堤達男《雄飛》設置於金谷高校。(静岡3/2,H23.10/10/23,読売静岡版3/2,中日静岡版3/2)
3/　足久保清油絵個展於静岡扇子屋(-10)。(静岡3/6)
3/ 4　針生ゼミ第1回と第2回の間の会於県民会館。
3/　開設一周年記念展於浜松ギャラリー花菱(-28)。(毎日中,西部版3/28))
3/ 7　第15回新協美術展於東京都美術館(-16)。細井繁成、文部大臣賞受賞。(三島民報3/10)
3/11　「内田六郎 ニュースと人」(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/11)
3/11　松島雅子・山本てる枝油絵二人展於静岡扇子屋(-19)。(静岡3/9,朝日静岡版3/10,読売静岡版3/12)
3/13　「斎藤真一 (芸術創造;1)」(静岡3/13)
3/15　高村光太郎生誕90年記念展於浜松市美術館(-31)。(毎日中,西部版3/1,4,静岡3/9,15,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/12,中日静岡版3/27)
3/16　青木一郎油絵展於清水戸田書店(-21)。(読売静岡版3/16,朝日静岡版3/16,清美協no.94)
3/18　クリフトン・W・カーフ版画展於沼津桃中軒。(毎日東部版3/19)
2/18　向井久万日本画展於静岡松坂屋(-24)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/18)
3/21　高柳千賀子個展於静岡扇子屋(-31)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/19,静岡3/23,27,読売静岡版3/28)
3/　小池為山古稀個展於県民会館(-26)。(静岡3/23)
3/23　横井弼原画色紙展於沼津ギャラリーほさか(-31)。(沼津朝日2/19,3/23,沼津毎日3/25)
3/25　「後藤清吉郎 和紙に魅せられ30年」(静岡3/25)
3/　石坂浩二水彩画展於沼津冨士急(-30)。(朝日伊豆岳南版3/30)
3/　松本俊介遺作展於静岡松坂屋(-31)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/26)
3/29　田中雨情遺墨展於県民会館(-4/2)。(静岡3/23,30)
3/30　針生ゼミ第2回於県民会館。
3/　松樹会展第2回於静岡松坂屋(-4/6)。(静岡3/30,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/2)
3/30　堤達男《朝陽》設置於焼津高校。(静岡3/30)
3/31　登呂博物館開館式。(中日静岡版S44.10/28,S46.8/11,S47.1/4,3/6,静岡S45.1/31,S47.2/5,4/1,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版S45.5/10,S47.1/6,3/27,4/1,日経静岡版2/5,毎日東海版2/17,3/16,東,中,西部版4/1,5/20,読売静岡版4/1)
3/31　第15回安井賞展於静岡西武(-4/5)。(静岡3/25,30,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/26,毎日東,中,西部版3/28,4/1,読売静岡版4/1)
3/　静岡ガスサロン開設。(静岡S54.8/20)
4/ 1　小栗正小品展於東京彩壷堂(-8)。
4/ 1　大石千代書展於県民会館(-5)。(静岡3/30,毎日東,中,西部版3/31,4/1,読売静岡版4/6)
4/　西伊豆美術連盟第1回展於堂ヶ島レステル(-7)。(静岡4/4)
4/　遠山かづこ展於静岡扇子屋(-9)。(静岡4/6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/9)
4/　福村隆壱洋画作品展於浜松元城アートギャラリー(-8)。(静岡4/6)
4/　築地進洋画展於静岡新聞別館(-9)。(静岡4/6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/9)
4/4　寺平誠介個展於静岡幸文堂(-9)。(読売静岡版3/29,朝日静岡版3/29,4/9,静岡3/30,4/6)
4/4　二紀会25周年記念展於浜松市美術館(-9)。(静岡3/30,4/6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/2)
4/4　後藤清吉郎展於大阪阪急(-9)。(静岡3/25)
4/ 6　渋谷秀山油絵肖像画展於県民会館(-13)。(静岡3/30,4/6,読売静岡版4/9)
4/ 7　西秀会展於静岡西武(-12)。(朝日静岡版4/7,毎日東,中,西部版4/11)[河瀬道雄・鈴木健司・伊藤勉]
4/　高柳千賀子展於浜松西武(-12)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/9)
4/ 8　田中鈞一虎画展於沼津天心画廊(-13)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/9,毎日東,中部版4/11)
4/ 8　沖六鵬新作書展於静岡松坂屋(-14)。(静岡4/6,9,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/8,読売静岡版4/9)
4/ 9　堤達男《筆塚観音像》建立。(静岡4/10)
4/ 9　鈴木重種油絵展於浜松元城アートギャラリー(-16)。(静岡4/6,朝日遠州版4/7,毎日中,西部版4/11)
4/　漆畑和代・清水和江二人展於静岡幸文堂(-16)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/16)
4/13　第2回日彫展於東京都美術館(-5/3)。浅井行雄《アチチュード》澤田政廣《文殊菩薩》下山昇《かがみ》杉本宗一《仏頭》飛岡文一《作品'72》堤達男《海軟風》堤直美《作品D》平馬学《若木》平野敬吉《ためらい》山本利治《おんな》館野弘青《裸婦》
4/13　日本リアリズム集団静岡支部展於県民会館(-16)。(静岡4/6,13)
4/13　県善三郎個展於浜松松菱(-18)。(読売静岡版4/8,静岡4/13,16,朝日静岡,遠州版4/13)
4/　天笠義一展於沼津天心画廊(-20)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/16)
4/15　前島秀章近況。(静岡4/15)
4/15　島戸繁油絵展於静岡松坂屋(-21)。(静岡4/13,17,20,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/16)
4/15　トップアート第1回展於浜松市美術館(-23)。永井正御、山田治、古田晴久、水野欣三郎、清水秀耕、青木達弥、二橋美衡、山下邦雄、秋野不矩、清川泰次、山下太郎。(静岡4/13,16,20,朝日遠州版4/14,毎日西部版4/18)
4/16　「南淳一 大理石に魅せられて」(静岡4/16)
4/18　山本利治《伊豆の踊り子》除幕於湯ヶ島浄蓮の滝。(静岡4/19,読売静岡版4/20*)
4/20　風土第9回展於沼津ギャラリーほさか(-25)。(沼津朝日4/16,毎日東部版4/18,沼津毎日4/19,静岡4/20)
4/20　島田貴代美個展於清水戸田書店(-25)。(朝日静岡版4/13,毎日東,中部版4/18,清美協no.95)
4/21　宮本裕之絵画個展於静岡産業会館(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/12,16,静岡4/20,毎日東,中部,遠州版4/25)
4/21　平井俊男個展於静岡扇子屋(-30)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/9,静岡4/27)
4/22　第46回国画会展於東京都美術館(-5/8)。柏木俊一《自画像》《夕日》《三福神》山口源《弧(ALL ALONE)》
4/22　在郷画家展於三島V8画廊(-28)。ニューギャラリーオープン。(三島ニュース4/27)
4/22　緑栄会展於静岡松坂屋(-28)。(静岡4/20,読売静岡版4/21)
4/　山口易恵《埴輪》横山大玄《あじさい》鈴木重雄《花瓶》袋井市へ寄贈される。(読売静岡版4/23,中日遠州版4/24,毎日中,西部版4/28)
4/　沼津文化会議、志賀旦山《千本松原より富岳を望む》を北朝鮮に送る。(沼津朝日4/26)
4/26　マダム・タッソー蝋人形館於静岡田中屋伊勢丹(-5/8)。(静岡4/24,25,5/4,毎日東,中,西部版4/23,読売静岡版4/27)
4/27　早川智恵子写真展於清水戸田書店(-5/2)。(読売静岡版4/30)
4/　柴田秀夫《虎》御殿場市役所。(毎日東部版4/28)
4/28　鈴木敬「四十年前の旧友の面影」(静岡4/28)
4/29　大正期の日本画展於神奈川県立近代美術館(-5/28)。近藤浩一路《鵜飼》中村岳陵《瀧神》《薄暮》《輪廻物語》
4/30　現代美術ゼミナール第12回於清水文化ホール。(清美協no.95)
4/　遠藤公子・山田博之・杉山侃子展於静岡小谷画荘(-5/5)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/30)
4/　竹本尭亜近作展於浜松ギャラリー花菱(-5/5)。(毎日中,西部版4/30)
5/ 1　柿下木冠、バルセロナでの日本美術展に出品。(毎日東,中,西部版4/27)
5/ 2　岡崎平一個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日静岡版

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

4/27,毎日東,中,西部版5/2,静岡5/8)
5/ 2　東郷青児水彩画展於三島V8画廊(-10)。(三島ニュース5/5)
5/ 3　県文化奨励賞授与式於静岡日興会館。増田猪富,青木幽渓受賞。(静岡4/29,毎日東,中,西部版4/29,中日遠州版4/29,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/3)
5/ 3　豊島春彦個展於清水戸田書店(-9)。(清美協no.95)
5/ 3　鈴木貞夫展於袋井上山梨体育館(-7)。(朝日遠州版4/28)
5/ 4　きょう展第2回展於静岡谷島屋書店(-10)。(朝日静岡版4/28,読売静岡版5/2,毎日東,中,西部版5/2,静岡5/8)
5/　井上市三郎個展於静岡産業会館。(読売静岡版5/11,静岡5/11)
5/5　佐々木貞夫展於沼津天心画廊(-18)。(毎日東部版5/2,14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/7)
5/9　秋山二三九個展於焼津開進堂(-14)。(静岡5/10)
5/9　川端政雄展於静岡幸文堂(-14)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/7,毎日東,中,西部版5/9,読売静岡版5/9)
5/10　北川民次回顧展於名古屋日動画廊(-21)。
5/　吉野不二太郎個展於静岡産業会館(-15)。(静岡5/11,12,読売静岡版5/11,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/14)
5/11　県美術家連盟第9回展於県民会館(-14)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版4/23,5/21,読売静岡版4/29,5/9,静岡5/11,12,毎日東,西中部版5/12,中日5/12)
5/11　駿府ギャラリー開館記念展於静岡駿府ギャラリー(-21)。(静岡5/11,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/14)
5/　長谷川栄一水彩画展於静岡扇子屋(-20)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/14,読売静岡版5/16,静岡5/18)
5/12　創元会展於浜松谷島屋書店(-16)。(毎日中,西部版5/9,静岡5/12)
5/　市野三接展於浜松名鉄(-16)。(静岡5/12)
5/　鈴木篤個展於静岡谷島屋書店(-17)。(静岡5/11)
5/13　二科写真部県支部創立。(毎日東海版5/4,中日遠州版5/22)
5/14　山田収近況。(静岡5/14)
5/　井上賢三ミニアチュール展於静岡松坂屋(-19)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/14,読売静岡版5/16)
5/16　堤達男《**悲母観音像**》除幕於戸田妙田寺。(静岡5/18,沼津毎日5/18)
5/16　壮炎会第27回展於浜松市美術館(-21)。(毎日東,中,西部版5/16,静岡5/17*,朝日遠州版5/17)
5/18　林忠彦写真集日本の作家109人展於新静岡センター(-25)。(静岡5/13,16,19,朝日静岡版5/20)
5/18　恩田秋夫木版画展於浜松松菱(-23)。(毎日中,西部版5/16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/21)
5/20　堤達男《杉山清平胸像》《相原つる胸像》除幕式於沼津中央病院。(沼津朝日5/21)
5/21　小川昌弘逝去。33歳。(朝日遠州版5/22)
5/　望月康男小品展於静岡扇子屋(-31)。(静岡5/28)
5/22　富永謙太郎「ふるさとの友」(静岡5/22)
5/22　内田公雄個展於東京櫟画廊(-27)。(沼津朝日5/19)
5/　白日会会員展於沼津ギャラリーほさか(-30)。(朝日伊豆岳南版5/23)
5/　三井為吉展於静岡ナベタ陶芸店(-30)。(朝日伊豆岳南,静岡版5/26)
5/25　柏木俊秀個展於三島V8画廊(-31)。(静岡5/29,三島民報5/30)
5/26　静清日本画グループ第1回展於静岡西武(-6/1)。(静岡5/29,毎日東,中,西部版5/30,清美協no.98)
5/26　古田晴久・吉川三伸展於浜松西武(-31)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/26)
5/　清流会第27回展於沼津富士急(-6/1)。(沼津朝日5/27)
5/27　青風会油絵第4回展於静岡松坂屋(-6/2)。(読売静岡版5/23,静岡5/26)
5/27　野島青茲遺作展於細江町分館(-28)。(静岡5/28)
5/29　現代美術ゼミナール第13回於清水文化ホール。
5/30　斎藤真一越後瞽女日記展於東京三越(-6/4)。(読売5/31,朝日6/3)
5/　永田画廊オープン。松尾敏夫展於静岡永田画廊(-7)。(毎日東,中,西部版6/6,読売静岡版12/26)
6/ 1　第26回女流画家協会展於東京都美術館(-13)
沢村美佐子《**むらさきの椅子**》(美術年鑑S.48)
6/ 1　松島達太郎小品展於浜松元城アートギャラリー(-7)。(中日遠州版5/13,6/1,静岡6/1)
6/　神田秀世展於静岡扇子屋(-10)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/4,読売静岡版6/6)
6/2　県展「死亡届事件」裁判結審。6/15県教委控訴断念、原告作家側勝訴確定。(毎日東,中,西部版3/7,6/3,12,16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/29,6/3,13,16,S48.4/22,読売静岡版6/3,16,中日静岡,遠州版4/3,6/1,3,16,市民美術no.13,美術手帖no.358,)
6/ 2　藤枝美術協会・浜松一束会絵画合同展於静岡産業会館(-4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/21,28,毎日中,西部版5/23,静岡5/26,読売静岡版5/30)
6/ 6　寺平誠介,県芸術祭実行委員辞退。(読売静岡版6/6,7,毎日中部版6/6)
6/ 6　鳥羽鐐一,鈴木福富,福井陽県無形文化財三人展於県民会館(-11)。(静岡6/1,7,中日静岡版6/7)
6/ 6　遠州美術会展於浜松市美術館(-11)。(静岡6/1,8,毎日西部版6/6)
6/ 7　堤達男《原勝治像》除幕式於下田白浜神社。(静岡6/8)
6/ 8　望月清作油絵展於清水戸田書店(-13)。(静岡6/10,清美協no.97)
6/ 9　原田真実・荒井隆雄写真展於新静岡センター(-15)。(静岡6/8)
6/10　泉会洋画展於静岡松坂屋(-16)。(静岡6/8,読売静岡版6/13)
6/10　飯田勝展於静岡扇子屋(-20)。(読売静岡版6/10)
6/13　海野光弘木版画展於静岡ガスサロン(-18)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/11,17,読売静岡版6/13)
6/13　藤野嘉市展於静岡幸文堂(-18)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/11,毎日東,中部版6/13)
6/14　県版画協会第37回展於県民会館(-18)。(朝日静岡版5/31,6/16,静岡6/8,15)
6/14　国際写真サロン展於県民会館(-18)。(静岡6/8,15,朝日伊豆岳南,静岡版6/15)
6/15　吉野不二太郎油絵作品展於沼津ギャラリーほさか(-20)。(沼津朝日6/10,朝日伊豆岳南版6/13)
6/16　平井俊男油絵個展於清水花菱(-21)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/11,静岡6/19,清美協no.97,98)
6/　富永正元仏画展於沼津天心画廊(-22)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/18,毎日東部版6/20)
6/　山口玲熙、可睡斎瑞龍閣襖絵を描く。(中日遠州版6/19)
6/　松美会第1回展於浜松松菱(-27)。(毎日東,中,西部版6/13,17,朝日遠州版6/17,24)
6/19　鈴木慶則展於東京ギン画廊(-7/1)。(朝日6/17,美術手帖8,9月号)
6/20　池田正司水彩画展於静岡幸文堂(-25)。(清美協no.97)
6/　赤堀尚個展於東京日本橋三越(-25)。(沼津毎日6/22)
6/21　池田正司出版祝賀会於水口屋。(清美協no.98)
6/　柴田俊個展於静岡扇子屋(-30)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/25,静岡6/26,29,毎日東,中,西部版6/27,読売静岡版6/27)
6/　森田茂近作展於静岡駿府ギャラリー(-27)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/25,静岡6/26)
6/25　堤達男《悲母観音像》開眼於藤枝長楽寺。(静岡6/26)
6/26　伊豆長八作品保存会設立総会。(静岡6/28)
6/27　林芙婦美子油絵展於静岡幸文堂(-7/2)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/25,読売静岡版6/27,静岡6/29)
6/28　芹澤晋吾展於三島V8画廊(-7/3)。(三島民報6/30)
6/28　石坂浩二絵画展於静岡産業会館(-7/2)。(静岡6/22,29)
6/28　奥村英夫作陶展於静岡産業会館(-7/2)。(静岡6/22,29)
6/29　松永綾子展於清水戸田書店(-7/4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/25,毎日東,中,西部版6/27,静岡6/29)
6/29　長部日本画展於県民会館(-7/2)。(静岡6/22)
7/ 1　月形那比古鬼志野展於静岡松坂屋(-7/7)。(静岡6/30,7/3,6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/2)
7/ 1　杉山青樹路油絵展於静岡扇子屋(-10)。(静岡7/6)
7/　オリオ古川展於沼津天心画廊(-6)。(毎日東,中,西部版7/4)
7/ 4　半田昌雄近況。(毎日東海版7/4)
7/ 4　増田大罌小品展於静岡幸文堂(-9)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/2,毎日東,中,西部版7/4)
7/ 4　ブリューゲル版画展於浜松市美術館(-23)。(中日静岡,遠州版6/27,28,29,30,7/1,2,3,4,11,17,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/2,静岡7/3)
7/ 6　鈴木和夫油絵展於清水戸田書店(-11)。(静岡7/8)
7/　稲葉泰樹油絵小品展於沼津ギャラリーほさか(-11)。(沼津朝日7/9)
7/　江崎武男・杉村孝二人展於静岡ガスサロン(-18)。

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

（静岡7/6,10,13,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/9）

7/　滝沢清ヨーロッパ近作展於静岡駿府ギャラリー(-12)。(静岡7/10)

7/　小林洋子個展於静岡谷島屋書店(-12)。
（静岡7/10,毎日東,中,西部版7/11）

7/10　野田好子展於東京西美会倶楽部(-15)。

7/11　安久一成遺作写真展於新静岡センター(-17)。(読売静岡版7/12,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/15)

7/　小塩令子近作展於静岡静岡新聞別館(-19)。
（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/16）

7/　橘天敬《**風神・雷神**》米フリーア美術館収蔵。
（毎日東海版7/13）

7/13　青木一郎油絵展於清水戸田書店(-18)。
（静岡7/13,清美協no.98）

7/　栗原信画業60周年記念展於沼津ギャラリーほさか(-18)。(沼津朝日7/15,朝日伊豆岳南版7/18,毎日東部版7/18)

7/14　永井正御・太田京子二人展於浜松西武(-19)。
（静岡7/13,17）

7/15　真田祥雲《観音像》開眼於三島白滝公園。
（静岡7/15,17）

7/　月見里シゲル《清水の景観》絵葉書。(静岡7/17)

7/17　海野光弘木版画展於東京清養堂(-22)。(朝日7/15)

7/20　片平勉人物画展於清水戸田書店(-25)。
（静岡7/20,清美協no.98）

7/　原田政太郎近作展於静岡扇子屋(-30)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/23,静岡7/27)

7/22　今日の美術・清水－日韓交流－展於清水花菱(-26)。7/23日韓現代美術シンポジウム於清水市中央公民館。(読売静岡版1/13,6/2,朝日静岡版7/19,静岡7/20,23,24,27,毎日中西部版7/23,清美協no.98,99)

7/22　山本晶司、米リッチモンド市訪問へ。
（中日静岡版6/13,読売静岡版6/22）

7/22　天竜彫刻の村開催(-8/31)。(静岡8/17,中日駿遠版7/22,読売静岡版9/2)

7/　シャガール展於静岡ギャラリー春野(-8/6)。(毎日東,中,西部版7/25,静岡7/27,8/3)

7/　伊藤輝彦水彩画展於浜松松菱(-8/1)。(静岡7/27)

7/27　山下清色紙展於清水戸田書店(-8/1)。(清美協no.98)

7/27　自由美術静岡支部展於静岡谷島屋書店(-8/3)。
（読売静岡版7/27,静岡7/27,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/30）

7/29　創元会浜松展於浜松市美術館(-8/6)。
（毎日西部版7/25,静岡7/27,8/3）

7/　彼末宏・島田章三・芝田米三三人展於浜松画廊(-8/5)。(静岡7/27,8/3,毎日中,西部版8/1,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/3)

8/ 1　《湯山正平像》除幕式於小山。(静岡8/2)

8/ 1　日展静岡展於県民会館・静岡新聞本社別館(-25)。
澤田政廣《**笛**》*和田金剛《**蒼河**》*野島青茲《**夏姿**》**
（静岡1/1,4/27,6/15,7/23,26,27,28,29,30*,31**,8/1,2,3,4,5,7,8,9,11,12,14,15,16,17,18,19,24,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/30,読売静岡版8/6）

8/　秋山二三九展於静岡ガスサロン(-6)。(朝日静岡版8/3)

8/　池田正司清見潟水彩画展於田中屋伊勢丹(-7)。
（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/30,8/3,読売静岡版8/2,静岡8/3,7）

8/　若山紀江パステル画展於静岡扇子屋(-10)。(読売静岡版8/4,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/6)

8/　堤直美彫刻展於沼津ギャラリーほさか(-8)。
（沼津朝日8/4）

8/　静岡版画同期の四人展於静岡カフェテラス銀の塔(-20)。(読売静岡版8/6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/6,静岡8/7,21,毎日東,中,西部版8/15)

8/8　筒井勝利・大堂多嘉子展於静岡ガスサロン(-13)。
（毎日東,中,西部版8/1,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/6,読売静岡版8/8）

8/　アートナウ・グループ浜松展於浜松市美術館(-13)。
（静岡8/10）

8/　静西会油絵展於静岡西武(-16)。(静岡8/10)

8/　会森利夫・大石和夫展於静岡扇子屋(-20)。
（毎日東,中,西部版8/15）

8/12　針生ゼミ第4回於教育会館。

8/12　鈴木慶則新作油絵展於静岡松坂屋(-18)。
（静岡8/10,17）

8/15　板谷房遺作展静岡松坂屋(-20)。(静岡8/7,10,16,17,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/13,読売静岡版8/15)

8/15　鈴木篤作品展於静岡ガスサロン(-20)。
（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/13）

8/16　山崎政雄油絵展於静岡幸文堂(-20)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/13,読売静岡版8/15,中日静岡版8/15,静岡8/17)

8/17　なつき会第1回展於静岡松坂屋(-25)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/20,静岡8/21,毎日東,中,西部版8/22,読売静岡版8/22,市民美術no.13)

8/　白美会第1回展於沼津富士急(-24)。
（沼津朝日8/23,毎日東部版8/23）

8/　ミロ・クラーベ版画展於静岡ギャラリー春野(-27)。
（静岡8/17,24）

8/19　井出芳志作品展於於静岡松坂屋(-25)。
（静岡8/17,21,24）

8/19　渡会伊良子展於静岡永田画廊(-25)。(静岡8/17,24)

8/21　石塚とよ子個展於浜松元城アートギャラリー(-27)。
（静岡8/17,24）

8/22　武藤達郎版画展於静岡扇子屋(-31)。(朝日静岡版8/27,静岡8/28,市民美術no.13)

8/22　SBS「土に謳う」堤達男他近況。(静岡8/22)

8/　木内克作品パネル展於浜松市美術館(-27)。
（静岡8/17,24）

8/　池谷誠一銅版画展於静岡谷島屋書店(-30)。
（静岡8/28）

8/24　新象展於浜松市美術館(-30)。(静岡8/24,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/27)

8/25　山下清東海道五三次遺作展於沼津西武(-30)。
（朝日伊豆岳南版8/22,静岡8/24）

8/26　沼津日本画合同第2回展於沼津富士急(-31)。
（沼津朝日8/22,23,29,静岡8/27）

8/26　長谷川富三郎版画展於静岡松坂屋(-9/1)。
（静岡8/24,31,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/27）

9/ 1　第57回二科展於東京都美術館(-20)。
北川民次《**花と母娘**》(美術年鑑S.48)
入選者。(読売静岡版8/29)

9/ 1　鷺坂博規・鷺坂せつ子展於静岡扇子屋(-10)。
（読売静岡版9/6,市民美術no.13）

9/ 1　光風会静岡支部第8回展於県民会館(-6)。(読売静岡版8/31,静岡8/31,中日静岡版9/1,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/3,毎日東,中,西部版9/5)

9/　ルドン版画展於静岡ギャラリー春野(-17)。(静岡9/7)

9/ 2　粛立声書画展於沼津ニチイ(-3)。(沼津毎日8/31,9/3)

9/　洛陽会展於静岡松坂屋(-12)。(静岡9/7)

9/ 5　高柳千賀子展於静岡ガスサロン(-20)。
（読売静岡版9/2,5）

9/ 7　玲陽会第12回展於県民会館(-13)。(静岡8/31,9/7,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/10)

9/　加賀孝一郎展於浜松西武(-13)。(朝日遠州版9/13)

9/9　針生ゼミ第5回於県民会館。

9/　瀬下妙子小品展於浜松ギャラリー花菱(-16)。
（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/10,静岡9/13）

9/10　第3回須磨離宮公園現代彫刻展於神戸須磨離宮公園(-10/22)。掛井五郎《これを女と名づけよう》《つくられる“あ”》《つくられる“い”》《つくられる“う”》宮脇愛子《作品1967＃14》《作品1968＃37》《作品1970》《作品1972》

9/11　風土第10回展於於東京室町画廊(-16)。
（沼津朝日9/2,沼津毎日9/9）

9/12　近藤智個展於静岡扇子屋(-20)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/10,毎日東,中,西部版9/12,静岡9/13,14)

9/12　県油彩美術家協会創立役員会於県婦人会館。

9/12　丸山力生水墨画展於静岡幸文堂(-18)。
（静岡9/14,市民美術no.13）

9/12　渡辺俊明個展於浜松市美術館(-17)。(静岡9/7)

9/14　滝平二郎きり絵展於静岡松坂屋(-19)。
（朝日静岡,遠州版9/10,14）

9/15　山下清東海道五十三次展於清水花菱(-20)。(静岡9/13,15,朝日静岡版9/14,清美協no.100)

9/15　竹久夢二展於浜松市美術館(-10/10)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/10,14,静岡9/13,18)

9/　目白会第1回展於静岡駿府ギャラリー(-23)。
（静岡9/21）

9/　海野光弘版画小品展於静岡ガスサロン(-24)。
（静岡9/21）

9/　大垣禎造展於浜松ナカムラ画廊(-24)。
（朝日静岡,遠州版9/20）

9/20　県アンデパンダン展於県民会館(-24)。(静岡9/13,21,中日静岡版9/19,市民美術no.13)

9/20　県日本画作家協会展於静岡産業会館(-24)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/17,中日静岡版9/19,静岡9/21)

9/　日本画洋画300選展於静岡産業会館(-24)。
（静岡9/21）

9/21　海野光弘版画小品展於静岡扇子屋(-30)。(静岡

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

9/21,30,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/24)

9/21　前島秀章能面展於静岡松坂屋(-26)。
(朝日静岡版9/15,静岡9/21,25)

9/22　第36回新制作展於東京都美術館(-10/10)。
秋野不矩《アフガニスタン風景(アフガニスタン)》
掛井五郎《ベスデダの池にて》
新入選者。(読売静岡版9/21)

9/26　中山晶水彩画個展於静岡ガスサロン(-10/1)。(静岡9/21,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/24,読売静岡版9/26,28)

9/28　志賀旦山日本画展於静岡松坂屋(-10/3)。
(静岡9/21,朝日静岡版9/22,沼津朝日9/27)

9/　美術文化協会支部集団個展於浜松市美術館(-10/3)。(静岡9/28)

9/29　三輪雅章展於浜松西武(-10/4)。
(朝日遠州版9/27,静岡9/29)

9/30　斎藤真一『越後瞽女日記』刊行。(毎日東海版10/3)

10/ 1　白隠展於三島佐野美術館(-11/26)。
(三島民報9/15,静岡10/2,11/9)

10/ 1　横山公男《**大石寺正本堂**》完成。(静岡S43.10/13,S45.10/13,S46.10/12,S47.10/1,13,15,読売静岡B版S43.10/13,S47.10/2*,朝日伊豆岳南,静岡版S53.8/23)

10/ 1　佐野静恵展於静岡扇子屋(-10)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/8,市民美術no.13)

10/ 2　新槐樹社静岡支部展於県民会館(-8)。
(静岡9/28,10/5,読売静岡版10/5)

10/ 2　写実派協会第30回展於県民会館(-8)。(静岡9/28,10/5,毎日東,中,西部版10/3)

10/　山田収《**希望の像**》除幕式於天城湯ヶ島町狩野小。
(読売静岡版10/4)

10/　松野崇写真展於静岡ガスサロン(-8)。(静岡10/5)

10/ 3　「木村仲久」(読売静岡版10/3)

10/　燦匠会展於静岡松坂屋(-10)。(静岡10/5,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/8)

10/ 5　ギャラリーテレビ静岡開設。
(中日静岡版10/5,S48.12/16)

10/　奈良原一高写真展於静岡西武(-11)。
(朝日静岡,遠州版10/7)

10/ 8　萩萩月展於沼津天心画廊(-10)。
(毎日東,中,西部版10/3)

10/10　南栖会展於県民会館(-16)。(静岡10/5,12)

10/10　書華陶鼎足展於県民会館(-15)。(静岡10/12)

10/11　小山勇個展於浜松市美術館(-15)。(静岡10/5,12,朝日遠州版10/11)

10/11　渡辺雷三木版画展於静岡扇子屋(-20)。(沼津朝日10/12,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/15,静岡10/16,市民美術no.13)

10/12　第40回独立展於東京都美術館(-30)。
山道栄助《郷》《峻》

10/12　第26回二紀展於東京都美術館(-30)。
佐野繁次郎《知っている子》水野欣三郎《ドッキング(脱落身心)》
入選者。(中日静岡版10/16)

10/12　高柳千賀子クロッキー個展於清水戸田書店(-17)。(毎日東,中,西部版10/10,読売静岡版10/11,静岡10/12,中日静岡版10/11)

10/12　望月祥堂[望月茂]個展於静岡谷島屋書店(-18)。(読売静岡版10/5,14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/8,静岡10/13,15,中日静岡版10/16)

10/12　針生ゼミ第6回於白鳥。

10/　小野具定日本画展於静岡松坂屋(-17)。(読売静岡版10/14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/15)

10/13　長谷川富三郎富士讃画展於富士文化センター(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/8,静岡10/13)

10/13　藪崎昭近作展於静岡駿府ギャラリー(-20)。
(静岡10/12)

10/16　県善三郎・北野熊雄・山田治展於浜松元城アートギャラリー(-29)。(静岡10/16,19,中日静岡版10/16,朝日遠州版10/17)

10/17　豊島春彦展於静岡ガスサロン(-22)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/15,静岡10/19)

10/17　久保田光亭水墨画展於静岡幸文堂(-22)。
(市民美術no.13)

10/　岩田専太郎展於静岡永田画廊(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/22,毎日東,中,西部版10/24)

10/　芝田恭子墨書展於静岡扇子屋(-31)。(静岡10/26)

10/　今井俊満展於新静岡センター(-25)。
(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/22)

10/　杉村敏男ペーパークラフト展於静岡ガスサロン(-29)。
(静岡10/26)

10/　竹久夢二展於浜松浜松画廊(-26)。(朝日遠州版10/24)

10/22　県水彩画協会第23回展於県民会館(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/15,静岡10/22,読売静岡版10/23,毎日東,中,西部版10/31)

10/26　横山志乃婦染色展於清水戸田書店(-31)。(静岡10/27)

10/　野口国雄個展於沼津ギャラリーほさか(-31)。
(沼津朝日10/24)

10/　ピカソとシャガール展於静岡松坂屋(-31)。
(静岡10/26)

10/27　沼津周雅会展於沼津ヤマサホール(-30)。
(沼津朝日10/26)

10/27　秀章会展於県民会館(-29)。(静岡10/26)

10/27　吉本石竜子展於静岡幸文堂(-29)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/22,毎日東,中,西部版10/24,市民美術no.13)

10/　井出孝小品展於新静岡センター(-11/5)。
(静岡10/30,11/2)

10/29　丹沢紅嶺逝去。享年73。(沼津毎日11/1)

10/31　平野敬吉木彫展於東京高島屋(-11/5)。

11/ 1　第4回日展於東京都美術館(-12/6)。
藤本東一良《爆雲桜島》浅井行雄《裸婦立像》大村政夫《華》杉本宗一《婦人像》館野弘青《三和》堤達男《堕ちる天使》平野敬吉《おもがえり》和田金剛《紅河》(静岡10/9,27,31,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/23,27,28)

11/　県野外造形展於静岡駿府公園(-6)。(静岡11/2)

11/　斎藤重司油絵展於清水戸田書店(-7)。(静岡11/2)

11/　杉山照治・杉山瑛子二人展於静岡扇子屋(-10)。
(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/5,静岡11/6)

11/ 2　小栗正日本画展於静岡松坂屋(-7)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/29,読売静岡版10/31)

11/ 2　相生垣瓜人展於浜松谷島屋(-5)。(毎日西部版10/31朝日遠州版11/1,静岡11/2)

11/ 3　外山卯三郎古稀記念展於御殿場農協(-5)。
(朝日伊豆岳南版11/2)

11/ 3　大村政夫《ボーイスカウト像》除幕式於静岡城内小学校。(静岡11/3,中日静岡版11/4)

11/ 3　現代巨匠金銀彫刻展於静岡西武(-15)。(静岡11/2)

11/ 3　平松実、県文化功労賞受賞。
(静岡10/21,中日静岡版10/21)

11/　沼津ギャラリー西武オープン。(朝日伊豆岳南版11/10,11,14,18,静岡版11/10,14)

11/ 4　八柳雅一《馬頭観音像》建立於島田。(読売静岡版11/4)

11/ 7　太田京子「窓辺」(静岡11/7,14,21,28,12/5,12,19,26,S48.1/9,16,23,30)

11/　望月利八戯面展於新静岡センター(-15)。(静岡11/9)

11/　色・受・想・行・識展於静岡ガスサロン(-12)。
(静岡11/9)

11/　杉本三男個展於静岡幸文堂(-12)。(静岡11/9)

11/ 9　勝呂隆光・青木和平・奥本泰蔵三人展於沼津ギャラリーほさか(-14)。(沼津朝日11/10)

11/　杉原元人・西野新川・渡辺幸雄三人展於浜松松菱(-14)。(静岡11/4,朝日遠州版11/4)

11/　霜辰会日本画展於静岡松坂屋(-14)。(静岡11/8,9,朝日伊豆岳南,静岡版11/9)

11/　安原喜明陶芸展於静岡駿府画廊(-15)。(静岡11/9)

11/10　村山径展於新静岡センター(-23)。(読売静岡版11/9,朝日伊豆岳南,静岡遠州版11/19)

11/10　鈴木福富、技能者表彰。(静岡11/9)

11/10　相生垣瓜人展於浜松市美術館(-17)。(静岡11/9,10,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/12,中日駿遠版11/15)

11/14　杉山青樹路個展於静岡ガスサロン(-19)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/12,読売静岡版11/14,静岡11/16)

11/14　良明会第10回展於浜松ナカムラ画廊(-20)。
(朝日遠州版11/14,読売静岡版11/16)

11/15　徳力富太郎個展於静岡永田画廊(-19)。(静岡11/16)

11/15　芸術祭第12回於県民会館・静岡新聞別館(-19)。
審査員:井上市三郎、加藤清治、大村政夫、館野弘青、水野欣三郎、金丸重嶺、鈴木三朝、三橋兄弟治。(読売静岡版6/1,6,7,11/14,15,静岡11/9,14,15,16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/,14,15,16,毎日東,中,西部版11/14,15)

11/16　野中弘個展於浜松松菱(-21)。(中日駿遠版11/15,静岡11/16,朝日遠州版11/16)

11/17　御厨美術展第1回展於小山町立体育館(-19)。
(静岡11/16,毎日東部版11/18)

11/17　備前12人展於沼津西武(-22)。
(朝日伊豆岳南版11/18)

11/17　デビット・ハミルトン写真展於新静岡センター(-23)。(読売静岡版11/10,18,朝日静岡版11/14,19,静岡11/16,22,毎日中部版11/17)
11/18　針生ゼミ第7回於静岡市中央公民館。
11/21　落合英男展於静岡吉見書店(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/19)
11/21　中村弘・中村綾子展於静岡幸文堂(-25)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/19)
11/　高柳千賀子個展於静岡ガスサロン(-26)。(静岡11/23)
11/　伊月七代油絵個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡11/23,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/26)
11/　佐藤真一個展於浜松画廊(-26)。(静岡11/22)
11/23　「ふえるギャラリー」ギャラリーほさか,天心画廊,竹村画廊,沼津西武他近況。(沼津朝日11/23)
11/23　リオノルド・フィーニ版画展於沼津西武(-12/6)。(朝日伊豆岳南版11/18)
11/23　中野謙二漆芸展於静岡松坂屋(-28)。(静岡11/16,22,27,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/26)
11/23　小倉遊亀喜寿記念展於静岡松坂屋(-28)。(静岡11/13,16,18,22,朝日静岡版11/16,19,23,24)
11/26　「ギャラリーぞくぞく」(読売静岡版11/26)
11/　清水秀耕個展於浜松遠鉄(-12/3)。(静岡11/30)
11/30　中村宏個展於東京青木画廊(-12/9)。
/　成川勝巳展於米パサディナ(-)。(毎日東海版8/4)
12/ 1　「木喰仏 猪飼重明」(中日駿遠版12/1)
12/ 1　海野光弘・前島秀章・中条峰雄三人展於静岡西武(-6)。(静岡11/30,12/4,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/3)
12/ 1　富本憲吉展於浜松市美術館(-24)。(朝日遠州版11/28,静岡11/30,12/4,7,21)
12/　広田多津展於静岡松坂屋(-10)。(静岡12/4)
12/5　県善三郎個展於浜松谷島屋書店(-10)。(静岡11/30,12/7,14)
12/　高山辰雄《唐詩選》石版画展於静岡ギャラリー春野(-24)。(静岡12/7)
12/ 7　新木彬文備前焼陶芸展於静岡松坂屋(-12)。(静岡12/7,9,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/10)
12/7　行動展於浜松市美術館(-14)。(朝日遠州版12/5,静岡12/7)
12/　渡辺昌明油彩展於沼津ギャラリーほさか(-13)(静岡12/7)
12/　木津悠志展於清水戸田書店(-12)。(静岡12/7)
12/11　勁心会展於静岡松坂屋(-19)。(朝日静岡版12/8)
12/　江崎武男・杉村孝二人展於静岡扇子屋(-20)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/10,静岡12/14,毎日東,中,西部版12/19,読売静岡版12/19)
12/12　ガスサロン合同展洋画彫刻於静岡ガスサロン(-28)。(静岡12/7,14,21)
12/14　芹沢省吾滞スペイン展於沼津竹村画廊(-19)。(沼津朝日12/8,静岡12/14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/17)
12/15　細井繁誠展於三島V8画廊(-21)。(三島民報12/15)
12/17　求正美作品展於浜松元城アートギャリー(-24)。(中日駿遠版12/1,静岡12/18)
12/20　杉山良雄展於静岡東洋信託銀行(-S48.1/31)。(中日静岡版12/17,毎日静岡版12/19,読売静岡版12/31,静岡S48.1/18,25)
12/21　佐野丹丘展於沼津ギャラリーほさか(-26)。(沼津朝日12/20,毎日東,中,西部版12/24,朝日静岡版12/26)
12/　樽松貞雄・村田収・斎藤磐展於静岡扇子屋(-31)。(朝日静岡,遠州版12/24)
12/22　井上茂個展於県民会館(-24)。(中日静岡版12/18,静岡12/21)
12/　遠山かづこ、杉村孝、原田政太郎、扇子屋画廊賞受賞。(静岡12/25)
12/　静岡扇子屋、画廊運営方法変更。(静岡9/7)
12/31　篠山紀信写真展於新静岡センター(-S48.1/12)。(静岡12/29,S48.1/1,毎日東,中部版12/31,朝日伊豆岳南,静岡版12/31,日経静岡版S48.1/5,中日静岡版S48.1/8)

1973 昭和48年

1/ 1　斎藤真一「草むらの地蔵」《瞽女街道》(静岡1/1)
1/ 1　中村陶吉「土と炎」(中日静岡版1/1,3,4,5,6,7,9,10,12,13,14)
1/　江崎武男素描展於焼津ブービィ(-8)。(静岡1/4)
1/　杉村孝・杉山有・森一三・三人展於浜松市美術館(-7)。(静岡1/6)
1/ 5　寺平誠介自選展於静岡ラ・フォリア(-31)。(静岡1/4,11,18,22,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版1/7)
1/　山下博己・鈴木保二人展於県民会館(-14)。(静岡1/12)
1/ 9　杉山青樹路アトリエ新春展於静岡ガスサロン(-21)。(静岡1/4,12)
1/10　田能村直外朱竹画大即売会於静岡田中屋伊勢丹(-15)。(静岡1/9,12)
1/11　「柳沢紀子 海外に生きる」(毎日東,中部,遠州版1/11)
1/11　現代彫刻大家四人展於静岡安心堂(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版S47.12/17,静岡1/12)
1/11　第10回朝日陶芸展於浜松松菱(-16)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版S47.9/3,S48.1/9,11,毎日西部版1/13)
1/15　井出芳志《サッカー少年の像》除幕式於藤枝小学校。(静岡1/16)
1/　伊藤勉小品展於焼津ブービィ(-22)。(静岡1/18,朝日豆岳南,静岡,遠州版1/21)
1/　ミロ版画展於静岡田中屋伊勢丹(-24)。(朝日静岡版1/20)
1/　ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-28)。(静岡1/18,25)
1/22　円成寺邦男近作油絵展於浜松元城アートギャラリー(-24)。(静岡1/18)
1/　木津悠志展於静岡ガスサロン(-28)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版1/28)
1/　三岸節子・片岡球子二人展於静岡松坂屋(-30)。(静岡1/24,25)
1/　佐々木真夫展於沼津天心画廊(-30)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版1/27,28,中日静岡版1/29)
1/　山本金蔵個展於静岡幸文堂(-2/4)。(静岡2/4)
2/ 1　袴田省三油彩展於沼津ギャラリーほさか(-6)。(中日静岡版1/29)
2/ 1　現代英国作家作品展於静岡松坂屋(-6)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版1/28,静岡1/31)
2/ 2　野島青茲展於東京松屋(-7)。(朝日2/3)
2/　岡崎平一展於焼津ブービィ(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/4)
2/　岩松正智額装展於静岡松坂屋(-13)。(静岡2/8)
2/　丸野豊司展於浜松ギャラリー松菱(-13)。(静岡2/8)
2/　ダリ手彩色エッチング展於静岡ギャラリー春野(-25)。(静岡2/8,15,22)
2/　日本の画家が描くパリの街展於沼津西武(-14)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/11)
2/ 8　平井俊男展於清水戸田書店(-13)。(朝日静岡版2/8)
2/ 8　岡本勝展於静岡谷島屋書店(-14)。(中日静岡版2/5,朝日静岡,遠州版2/10)
2/10　石彫り作家展於県民会館(-28)。(静岡2/8,22,朝日静岡,遠州版2/17)
2/14　光風会静岡支部展於県民会館(-20)。(静岡2/8,15)
2/15　「中条峰雄 ふぇーす」(中日静岡版2/15)
2/　三輪雅章、初窯。(中日静岡版2/28)
2/　青洞社新人展於静岡扇子屋(-28)。(静岡2/15,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/11)
2/20　南輝雄イラスト展於静岡ガスサロン(-25)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/18,静岡2/22)
2/　長尾タダユキ版画展於島田ながを(-3/25)。(静岡2/22)
2/23　ロダン・ブールデル・マイヨール展於静岡西武(-28),於浜松西武(3/2-7)。(静岡2/22,3/1,2,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/25,遠州版3/2)
2/　児玉幸雄新作油絵展於静岡松坂屋(-3/6)。(朝日伊豆岳南,静岡版2/24,中日静岡版3/5)
2/27　見城春男デッサン展於静岡ガスサロン(-3/4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版2/25,静岡3/1)
2/　伊藤靖夫個展於浜松元城アートギャラリー(-3/4)。(朝日遠州版2/27,静岡3/1)
2/28　如月会展於浜松ナカムラ画廊(-3/6)。(朝日遠州版2/28,静岡3/1)
3/ 1　谷口正春新作発表会於沼津富士急天心画廊(-6)。(沼津朝日3/2 朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/4)
3/　佐藤徹展於焼津ブービィ(-31)。(中日静岡版3/19)
3/　青木幽渓個展於県民会館(-10)。(静岡3/1,8)
3/2　永瀬義郎秀作版画展於沼津西武(-7)。(沼津朝日3/3)
3/2　大村政夫《同胞の幸》除幕式於焼津高校(静岡3/3)
3/　林香君洋画展於新静岡センター(-7)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/4)
3/ 4　「熱気帯びる絵画ブーム 浜松」(静岡3/4)
3/　県女流画家作品展於静岡三菱信託銀行静岡支店(-31)。(静岡3/5,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版3/11)
3/　金子滋展於静岡ガスサロン(-10)。(静岡3/8)
3/ 8　井出芳志《春が来た》像於岡部朝比奈小。(静岡3/9)
3/　宮田三郎木版画展於浜松松菱(-13)。(静岡3/10,中日静岡版3/12)
3/10　下山昇・和田金剛《学制百年記念像》静岡県教育会館。(静岡3/11)

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

3/10　小泉清遺作展於静岡松坂屋(-18)。(日経静岡版3/9, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版3/10, 静岡3/10,12)
3/13　渡辺信良・袴田早苗・太田通泰三人展於静岡ガスサロン(-18)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版3/11, 静岡3/15)
3/14　真道黎明展於静岡産業会館(-18)。(日経静岡版3/9)
3/14　高崎晴風日本画展於浜松市美術館(-18)。(朝日遠州版3/7, 静岡3/8,14, 中日静岡版3/12)
3/15　野島青茲遺作展於浜松協和銀行支店(-17)。(中日静岡版3/12, 静岡3/15)
3/16　ピカソ版画展於静岡ギャラリー春野(-25)。(日経静岡版3/9, 静岡3/22)
3/20　二重作龍夫油絵展於東京日本橋三越(-25)。
3/20　遠州美術会選抜展於浜松元城アートギャラリー(-25)。(朝日遠州版3/20, 静岡3/21)
3/23　岳麓美術家作品展於富士市民会館(-25)。(中日静岡版3/19, 静岡3/22)
3/　高倉清雄写真展於浜松市美術館(-25)。(静岡3/22)
3/　友井篁村[敏雄]書作展於新静岡センター(-26)。(静岡3/23)
3/　土井俊泰個展於東京彩画堂(-31)。(朝日3/31)
3/27　寺平誠介・田端勝清二人展於静岡ガスサロン(-4/1)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版3/25, 静岡3/26,29)
3/27　玲陽会日本画展於県民会館(-31)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版3/25, 静岡3/26)
3/27　七丈南豊展於県民会館(-4/1)。(静岡3/22)
3/28　青木一郎個展於沼津竹村画廊(-4/2)。(沼津朝日3/28)
3/29　松韻会日本画展於静岡松坂屋(-4/3)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版3/25)
4/ 1　寺平誠介「わが憧れ」(静岡4/1)
4/ 1　沼津美術研究所、香堂美術研究所を改称し発足。(沼津朝日3/18)
4/ 1　1万平方ミリ造形実験展於狐ヶ崎ヤングランド(-30)。県造形協会発足。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/22, 清美協no.107, 109)
4/ 1　大堂多嘉子個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/1, 静岡4/9)
4/　松永哲於富岳版画展於静岡カフェテラス銀の塔(-28)。(静岡4/16, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/22)
4/　内田公雄・赤松克巳二人展於沼津ギャラリーほさか(-11)。(沼津朝日4/3, 中日静岡版4/9)
4/ 3　ダリ銅版画展於静岡ギャラリー春野(-22)。(日経静岡版4/7)
4/ 4　松樹会日本画展於静岡松坂屋(-10)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/1)
4/ 7　山家初枝彫刻展於東京現代彫刻センター(-14)。
4/ 8　二紀会第26回展於浜松市美術館(-15)。(静岡4/5, 8)
4/ 8　開廊3周年記念展於浜松画廊(-15)。(日経静岡版4/7)
4/11　鈴木貞夫展於浜松遠鉄(-16)。(中日静岡版4/9, 朝日遠州版4/11)
4/12　婦人を描く十人展於静岡松坂屋(-17)。(静岡4/5)
4/12　県善三郎絵画展於浜松松菱(-17)。(日経静岡版4/7, 中日静岡版4/9, 朝日遠州版4/11, 静岡4/12)
4/　成川勝巳個展於沼津V8画廊(-17)。(静岡4/12)
4/　国際青年美術家展於沼津西武(-18or25)。(朝日3/20, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/15, 中日静岡版4/16, 毎日東, 中, 西部版4/22)
4/13　第3回日彫展於東京都美術館(-5/3)。浅井行雄《坐像》大村政夫《首》澤田政廣《カルラ》下山昇《赤いハーモニカ》杉本宗一《女の首》堤達男《からす》平馬学《丘に立つ》平野敬吉《こだま》松田裕康《脱皮》山本利治《生》和田金剛《寒波》(出品目録)
4/15　ピカソ展於静岡テレビ静岡(-19)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/15, 中日静岡版4/16, 23)
4/　斎藤真一《瞽女》レコード制作。(静岡4/17)
4/　一陽会遠州作家展於浜松元城アートギャラリー(-22)。(静岡4/19)
4/17　川端政雄作品展於静岡幸文堂(-22)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/15, 静岡4/16)
4/17　土筆会展於浜松ギャラリー花菱(-23)。(中日静岡版4/16, 静岡4/18,19)
4/19　エイゼンシュテイン展於静岡松坂屋(-24)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/13, 15, 17, 19, 20, 静岡4/12, 18, 18,19)
4/　渡辺俊明展於静岡谷島屋書店(-25)。(毎日東, 中, 西部版4/22, 静岡4/23, 中日静岡版4/23)
4/　一東会展於静岡ガスサロン(-30)。(静岡4/19, 23, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/22)
4/20　山田孝幸父子油絵肖像画展於浜松市美術館(-29)。(静岡4/19, 26, 中日静岡版4/23)
4/　青島秋果・秋山浩薫展於静岡ラ・フォリア(-30)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/22)
4/22　「カネ出し口ださぬ文化行政」(中日静岡版4/22)
4/22　第47回国画会展於東京都美術館(-5/8)。入選者。
4/22　第50回春陽会展於東京都美術館(-5/8)。入選者。(中日静岡版4/16)
4/23　牛島憲之新作版画展於浜松画廊(-29)。(毎日西部版5/8)
4/24　松永哲於個展於静岡ギャラリー春野(-29)。(静岡4/19, 26)
4/26　県油彩画家協会第1回展於県民会館(-29)。(静岡4/19, 26, 27, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版4/22, 中日静岡版4/23)
4/　末松利夫個展於沼津天心画廊(-30)。(静岡4/26, 毎日東, 中, 西部版4/29)
4/　新潮会展於沼津V8画廊(-30)。(静岡4/26)
4/　大石靖個展於沼津ギャラリーほさか(-30)。(静岡4/26)
4/　太田利三展於富士宮みなみ喫茶(-5/4)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/1)
5/ 1　マリノ・マリーニ銅版画展於静岡ギャラリー春野(-20)。(毎日東, 中, 西部版4/29, 日経静岡版5/8, 静岡5/10,17, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/13)
5/ 1　吉野不二太郎油絵展於静岡産業会館(-6)。(静岡4/26, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/1)
5/ 1　長野弥生油絵個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/1, 静岡5/7)
5/　鈴木貞夫《足跡》浜松砂丘小学校に寄贈。(静岡4/23)
5/ 3　篠田幸夫、海野幸正、県文化奨励賞受賞。(静岡5/2, 毎日東, 中, 西部版5/2, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/2, 中日静岡版5/2, 5)
5/ 3　天野尊博個展於沼津竹村画廊(-8)。(沼津朝日5/3)
5/ 3　寺平誠介自選展於清水戸田書店(-8)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/1, 静岡5/2, 7, 毎日東, 中, 西部版5/6)
5/　大井碧水展於静岡谷島屋書店(-9)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/6)
5/ 5　富士美術館一般公開。(静岡S47.10/13, S48.5/3)
5/ 5　鈴木黄鶴展於浜松市美術館(-27)。(静岡5/2, 10, 14, 朝日遠州版5/2, 中日静岡版5/7, 8, 14)
5/ 8　古田晴久・吉川三伸絵画展於浜松遠鉄(-14)。(静岡5/2, 7, 10, 朝日遠州版5/3, 中日静岡版5/7)
5/ 9　杉山有個展於静岡産業会館(-13)。(日経静岡版5/8, 静岡5/10)
5/10　静流会第28回展於沼津富士急(-15)。(沼津朝日5/8, 沼津毎日5/9)
5/10　県美術家連盟展於県民会館(-13)。(静岡5/2, 10, 中日静岡版5/7, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/10, 毎日東, 中, 西部版5/12)
5/11　巨匠ピカソと現代作家版画展於静岡西武(-15)。(毎日静岡版4/12, 朝日伊豆岳南, 静岡版5/13)
5/　三輪雅章作陶展於浜松丸東工芸舎(-19)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/13, 静岡5/17)
5/15　滴水会展於静岡ガスサロン(-20)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/13)
5/15　長谷川栄一展於静岡幸文堂(-20)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/13)
5/17　丸山力生水彩個展於清水戸田書店(-22)。(朝日静岡版5/16, 静岡5/18, 清美協no.108)
5/17　恩田秋夫木版画展於浜松松菱(-22)。(日経静岡版5/8, 静岡5/19, 朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/20)
5/20　伊藤応久個展於浜松ギャラリー花菱(-27)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/20, 中日静岡版5/21, 静岡5/24)
5/21　「県下の陶芸界」(中日静岡版5/21)
5/22　鈴木篤展於静岡ガスサロン(-27)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/20)
5/22　国持フミ展於静岡幸文堂(-27)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/20)
5/22　壮炎会第28回展於浜松市美術館(-27)。(静岡5/17, 24, 朝日遠州版5/17, 毎日東, 中, 西部版5/20, 中日静岡版5/21)
5/23　「絵画は大暴落」(中日静岡版5/23)
5/24　吉野不二太郎油絵展於清水戸田書店(-29)。(朝日伊豆岳南, 静岡, 遠州版5/20, 中日静岡版5/21, 朝日静岡版5/23, 清美協no.108)
5/24　風土第11回展於沼津ギャラリーほさか(-29)。(毎日東, 中, 西部版5/20, 中日静岡版5/21, 静岡5/24)
5/24　サンパウロ美術館展於静岡松坂屋(-6/5)。(毎日東,

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

中,西部版4/5,西部版4/18,東中部版4/20,静岡版4/22,4/26,28,東,中,西部版,5/5,11,12,15,16,18,19,20,22,23,24,25,26,28,31,6/2,5,6,静岡4/4,18,5/2,16,20,23,24,25,26,30,31,中日静岡版5/14,朝日静岡版5/20,23,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/23,27)

5/24　求正美油絵展於浜松松菱(-29)。(日経静岡版5/8,静岡5/17,朝日遠州版5/24)

5/　フランス・ロマネスク彫刻写真展於静岡ギャラリー春野(-6/3)。(静岡5/24,31,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/27)

5/26　インカ帝国の秘宝展於静岡西武(-6/5)。(静岡5/24,朝日静岡版5/27)

5/27　「鈴木貞夫 スケッチしずおか」(中日静岡版5/27)

5/29　アカシヤ大賞展於静岡産業会館(-6/6)。(中日静岡版5/29,6/4)

5/29　女流同志油絵展於静岡ガスサロン(-6/3)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版5/27,朝日静岡版5/31,静岡5/31)

5/29　饗場二郎・泉沢守二人展於浜松市美術館(-6/3)。(中日静岡版5/28,静岡6/1)

5/　県造形協会展於富士みなみ喫茶(-6/4)。(静岡5/31)

5/31　望月利八展於清水戸田書店(-6/5)。(朝日静岡版5/31,読売静岡版6/15,県油協no.6,清美協no.108)

5/　黒潮会洋画展於静岡松坂屋(-6/5)。(静岡5/31,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/3)

5/　加部弘夫・高橋吉左衛門・越石幸子三人展於静岡松坂屋(-6/5)。(静岡6/2)

6/ 1　北川民次画業60年回顧展於東京東急日本橋店(-6),於名古屋日動画廊(9-16)於大阪梅田近代美術館(30-7/15)。(美術年鑑S.49・50,毎日6/4,朝日6/5)

6/　松下忠雄展於熱海シュール(-10)。(伊豆毎日6/3)

6/　松美会展於浜松松菱(-12)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/3)

6/ 4　伊藤松濤書作展於浜松遠鉄(-10)。(静岡5/31,中日静岡版6/4)

6/　平井俊男展於清水銀座会館(-12)。(静岡6/7,朝日静岡版6/8)

6/ 5　山崎政雄展於静岡幸文堂(-10)。(中日静岡版6/4,読売静岡版6/5,静岡6/9,毎日東,中,西部版6/10)

6/ 6　県内造形作家による展覧会於県民会館(-17)。(静岡5/31,6/7,14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/3,清美協no.109)

6/7　青木一郎油絵展於清水戸田書店(-12)。(静岡6/9)

6/8　柏木俊秀個展於三島V8画廊(-17)。(静岡6/7,三島民報6/15)

6/　寺田嫢子個展於磐田美術館(-20)。(静岡6/9)

6/　東京版画懇話会静岡展於静岡カフェテラス銀の塔(-30)。(静岡6/11,28,中日静岡版6/11,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24)

6/11　柴田俊個展於静岡扇子屋(-20)。(静岡6/11,14,18)

6/12　アルプ石版画展於静岡ギャラリー春野(-7/1)。(中日静岡版6/11,25,静岡6/14,21,28,毎日東,中,西部版6/24,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24)

6/12　藤野嘉市油絵展於静岡幸文堂(-17)。(毎日東,中,西部版6/3,静岡6/7,14)

6/　尾形松仙展於熱海ヤオハン(-)。(伊豆毎日6/13)

6/　米村温日本画展於浜松松菱(-19)。(中日静岡版6/18)

6/14　中村恒也日本画展於静岡松坂屋(-19)。(静岡6/13)

6/　高柳千賀子とそのグループ展於静岡ラ・フォリア(-30)。(読売静岡版6/15,静岡6/18,21,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24)

6/　頓宮隆輔近作展於浜松ギャラリー花菱(-24)。(静岡6/21,朝日遠州版6/21,毎日東,中,西部版6/24,中日静岡版6/25)

6/20　静岡現代版画展於県民会館(-7/1)。(静岡6/14,21,28,毎日東,中,西部版6/17,読売静岡版6/19)

6/21　堅山南風社中同人展於清水永田画廊清水店(-24)。(毎日東,中,西版6/17)

6/21　小松浩代個展於焼津グランドホテル。(静岡6/16)

6/　平川信子個展於静岡扇子屋(-30)。(静岡6/25,朝日静岡版6/27)

6/　福沢一郎展於静岡松坂屋(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24)

6/　酒谷明良展於静岡ピカソ(-26)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24)

6/　天方雷太展於浜松西武(-27)。(静岡6/21,中日静岡版6/25)

6/　池田満寿夫石版画展於浜松松菱(-26)。(静岡6/25)

6/23　鎌田糸平個展於パリ:レイモンド・ダンカン画廊。(静岡6/12)

6/23　滝沢清《思い出の長浜》滋賀県芸術文化会館へ寄贈。(読売静岡版6/26)

6/23　熱海美術連盟第1回展於熱海観光会館(-26)。(伊豆毎日6/23,26)

6/26　石田善彦・遠藤忠三郎二人展於静岡ガスサロン(-7/1)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版6/24,静岡6/25,読売静岡版6/26)

6/26　小川龍彦「ふるさと再発見」(静岡6/26)

6/　浅羽保治展於浜松松菱(-7/3)。(朝日遠州版6/29)

6/29　モネ展於静岡西武(-7/8)。(読売静岡版6/8,21,22,23,24,26,27,28,29,30,7/4,5,静岡5/10,6/29,毎日東,中部6/29)

6/　岸本謙仁作陶展於静岡松坂屋(-7/4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/1,静岡7/2)

6/30　ポスター・ニッポン・シズオカ展於浜松商工会議所(-7/4)。(静岡6/25,28,7/1,2)

7/1　現代日本美術秀作展於浜松市美術館(-17)。(中日静岡版5/31,7/11,静岡6/18,28,毎日東,中,西部版6/24,朝日遠州版6/27,読売静岡版7/2)

7/ 1　高柳千賀子個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日静岡版6/29,静岡7/5)

7/　ザオ・ウーキー石版画展於静岡ギャラリー春野(-15)。(静岡7/5,12)

7/ 2　浜松女流展於浜松美術展示社(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/1)

7/ 3　松永哲於版画展於静岡ガスサロン(-8)。(静岡6/28,7/5)

7/　清川泰次展於東京好文画廊(-20),第七画廊(-7/7)。(朝日7/4)

7/ 5　北原勉彫刻展於清水戸田書店(-10)。(清美協no.109)

7/　増島豊治展於沼津ギャラリーほさか(-10)。(毎日東,中,西部版7/8)

7/　吉野不二太郎展於静岡ピカソ(-15)。(静岡7/9)

7/10　岩崎喜作・下村恵輝展於静岡ガスサロン(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/1)

7/11　上原卓・平川敏夫二人展於静岡松坂屋(-17)。(静岡7/5,12)

7/　澤野太郎展於浜松松菱(-16)。(朝日遠州版7/14)

7/12　橋本正巳展於沼津ギャラリーほさか(-17)。(沼津毎日7/12,静岡7/12,16,沼津朝日7/13)

7/　清川泰次『白の世界』出版。(静岡7/13)

7/14　市野三接個展於浜北グリーン会館(-22)。(静岡7/12,16)

7/17　原崎富士雄富士山写真展(-22)。(朝日静岡版7/13,毎日東,中,西部版7/15,静岡7/16)

7/　マリノ・マリーニ色彩版画展於静岡ギャラリー春野(-8/5)。(朝日静岡版7/20, 29, 毎日東, 中, 西部版7/22,静岡7/26,8/2)

7/　山田安展於静岡ラ・フォリア(-8/4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/18)

7/19　太田京子・柿下木冠・永田文昌展於清水戸田書店(-24)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/15,23)

7/19　石坂浩二・浅丘ルリ子創作展於浜松松菱(-24)。(静岡7/21,毎日西部版7/21,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/21,日経静岡版7/21,中日駿遠版7/22)

7/20　寺平誠介「C・キーピングのえほん」(静岡7/20)

7/20　大ピカソ展於沼津西武(-25)。(沼津朝日7/13,沼津毎日7/12,朝日伊豆岳南版7/18,静岡7/19,21,)

7/20　仁瓶芳弘展於浜松西武(-25)。(静岡7/19)

7/21　創元会第32回展於浜松美術館(-29)。(静岡7/19,中日静岡版7/24,毎日東,中,西部版7/29)

7/23　彫刻の森開村於天竜旧長沢小学校。(静岡7/24,8/15)

7/24　酒谷法系展於沼津ギャラリーほさか(-29)。(沼津毎日7/24,8/11)

7/25　遠藤君雄訪欧作品展於沼津竹村(-30)。(沼津毎日7/22,静岡7/26,毎日東,中,西部版7/29,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版7/29)

7/25　神々の座 白川義員ヒマラヤ写真展於県民会館(-8/12)。(静岡7/26,29,8/2)

7/25　創形会第1回展於静岡ガスサロン(-8/5)。(静岡7/19,26,8/2,毎日東,中,西部版7/22,朝日静岡版7/31)

7/25　田能村直外朱竹画展於静岡田中屋伊勢丹(-30)。(静岡7/24)

8/ 1　杉山青樹路個展於静岡扇子屋(-10)。(朝日静岡版7/31,静岡8/2,9)

8/ 2　石子順造「劇画の思想」(静岡8/2)

8/2　松下忠雄花の油絵展於清水戸田書店(-7)。(朝日静岡版7/31,静岡8/2,3,毎日東,中,西部版8/5)

8/ 2　新象巡回展於浜松市美術館(-8/2)。(中日静岡版7/24,静岡8/1,2,毎日東,中,西部版8/5)

8/　同期の四人展於静岡銀の塔(-25)。

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

（毎日東,中,西部版8/12）

8/ 3　田島コレクション展於静岡駿府博物館（-8/26）。（静岡8/4,23）

8/ 4　沼津日本画合同展於沼津富士急（-14）。（沼津朝日8/1,朝日伊豆岳南版8/2,毎日東,中,西部版8/5）

8/ 6　沖六鵬「窓辺」（静岡8/6,13,20,27,9/3,10,17,10/1,8,15,22,29）

8/ 7　杉十平個展於静岡ガスサロン（-12）。（朝日静岡版8/1,静岡8/2,9）

8/　73カリギュラ展於浜松元城アートギャラリー（-12）。（静岡8/11）

8/ 9　中西良昭油絵於静岡松坂屋（-14）。（静岡8/8）

8/ 9　三上次男写真展於新静岡センター（-15）。（毎日東,中,西部版8/8）

8/　加藤舜陶・河本五郎・鈴木青々三人展於浜松松菱（-21）。（静岡8/11,16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/12）

8/14　県版画協会第38回展於県民会館（-19）。（静岡8/9,16,朝日静岡版8/18,読売静岡版8/19）

8/15　県水彩画協会第23回展於県民会館（-19）。（静岡8/9,16,読売静岡版8/16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/17）

8/15　静清日本画協会第3回展於県民会館（-19）。（静岡8/9,16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/12,18,19,中日静岡版8/13,清美協no.112）

8/16　西貝和子版画展於清水戸田書店（-21）。（静岡8/16,毎日東,中,西部版8/19,朝日伊豆岳南,静岡版8/19,中日静岡版8/20）

8/16　隆鼎会日本画展於静岡松坂屋（-21）。（静岡8/15,16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/19）

8/　篠山紀信スター106人展於新静岡センター（-22）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/18）

8/18　篠田幸夫《**暁子の像**》除幕式於三ケ日青年の家。（読売静岡版7/7,中日駿遠版7/7,8/18,静岡8/16）

8/19　県美術家連盟第1回ゼミ於県民会館。講師：石子順造。（県美連会報no.12）

8/19　二橋志乃遺作展於浜松市美術館（-26）。（静岡8/20,毎日東,中,西部版8/19,静岡版8/25,朝日遠州版8/19,読売静岡版8/20,中日静岡版8/20）

8/21　鈴木正巳個展於浜松市美術館（-26）。（静岡8/16,23,毎日東,中,西部版8/19,中日静岡版8/20）

8/22　葉酔白天馬百展於静岡田中屋伊勢丹（-27）。（静岡8/21,朝日伊豆岳南,静岡版8/22）

8/　ゴヤ展於沼津西武（-29）。（静岡8/22,23）

8/23　畦地梅太郎版画展於浜松松菱（-28）。（静岡8/22,23,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/26,中日静岡版8/27）

8/23　松崎洋子スケッチ展於浜松美術展示社（-29）。（中日静岡版8/20,毎日東,中,西部版8/26,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/26）

8/25　鈴木敬個展於浜松元城アートギャラリー（-29）。（静岡8/23）

8/28　国際写真サロン・県写真展於新静岡センター（-9/2）、於吉原市民会館（9/3-9）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/10,24,9/2,朝日静岡8/24,静岡9/4,6）

8/28　中村弘・中村綾子展於静岡ガスサロン（-9/2）。（毎日東,中,西部版8/26,静岡8/30）

8/28　遠藤公子・杉山侃子展於静岡幸文堂（-9/2）。（朝日静岡版8/24,中日静岡版8/27）

8/29　白日会静岡支部展於県民会館（-9/2）。（静岡8/23,29.30,中日静岡版8/27,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/1）

8/30　米原三郎油絵小品展於静岡松坂屋（-9/4）。（静岡8/23,29,30,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/1）

8/31　富士宮市美術協会第1回展於富士宮市公民館（-9/2）。（静岡9/1）

9/ 1　第58回二科展於東京都美術館（-20）。北川民次《百鬼夜行》《花と母子像》新入選者。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版8/30,読売静岡版8/30）

9/ 4　倉松英人展於静岡ガスサロン（-9）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/2）

9/ 5　県アンデパンダン第5回展於県民会館（-9）。（静岡8/30,9/6,読売静岡版9/4,11）

9/ 6　洛琳会日本画第2回於静岡松坂屋（-11）。（静岡8/30,9/5,6,朝日静岡版9/2,読売静岡版9/4）

9/10　「郷土の画家大久保一丘」（中日静岡版9/10）

9/　のむら清六墨彩展於三島V8画廊（-15）。（中日静岡版9/10）

9/　葉逢儀彩墨画展於沼津西武（-19）。（中日静岡版9/10）

9/11　遠州美術第17回展於浜松市美術館（-16）。（静岡9/6,13,毎日東,中,西部版9/9,中日静岡版9/10）

9/　松野崇写真展於静岡ガスサロン（-16）。（静岡9/13,朝日静岡版9/14）

9/13　小田俊与油絵彫刻展於静岡松坂屋（-18）。（静岡9/6,12,朝日静岡版9/11）

9/13　丸山力生展於静岡谷島屋書店（-19）。（静岡9/13）

9/13　T氏現代版画コレクション展於静岡ギャラリー春野（-25）。（朝日静岡版9/12,静岡9/13,20,毎日東,中,西部版9/23）

9/14　日本画人気作家展於沼津天心堂画廊（-20）。天心堂画廊移転ニューオープン。（静岡9/15）

9/15　船坂芳助版画展於沼津ギャラリーほさか（-25）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/16,中日静岡版9/17,沼津毎日9/18,読売静岡版9/18毎日東,中,西部版9/23）

9/15　小田木智久・小田木泰子展於浜松美術展示社（-23）。（静岡9/13,20,毎日東,中,西部版9/16）

9/　山田収《狩野のみどり子像》除幕式於大仁小。（静岡9/17）

9/18　川口潔個展於米ニューヨークフェニックス画廊（-10/6）。（沼津朝日11/18,静岡11/26）

9/18　龍駿介個展於東京日本工業倶楽部（-21）。（沼津毎日9/18）

9/18　県工芸家協会展於県民会館（-20）。（静岡9/13,20）

9/18　豊島春彦展於静岡ガスサロン（-22）。（読売静岡版9/11,18,静岡9/13,20,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/16）

9/20　増田大罌展於静岡幸文堂（-25）。（毎日東,中,西部版9/16,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/16,静岡9/17,20,中日静岡版9/17,読売静岡版9/18）

9/　河口淳太郎・山本真展於清水戸田書店（-25）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/23）

9/21　高木倶イラン風物詩展於東京銀座松屋（-26）。（沼津朝日9/20）

9/23　近代日本の版画展於浜松市美術館（-10/7）。（中日静岡版9/17,静岡9/20,27,10/4,5,毎日東,中,西部版9/23,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/23,読売静岡版9/23）

9/24　市川正三展於東京紀伊国屋画廊（-30）

9/　小杉玲子作品展於浜松美術展示社（-10/1）。（静岡9/27）

9/26　「内山牛松 ちゃっきり放談」（中日静岡版9/26）

9/27　小川国夫「ゴッホと鴉」（静岡9/27）

9/27　佐野和夫展於清水戸田書店（-10/2）。（静岡9/20,27）

9/27　美のインテリア展於静岡産業会館（-10/2）。（静岡9/26,29）

9/27　森田与四郎個展於沼津ギャラリーほさか（-10/2）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/23,読売静岡版9/25,沼津毎日9/28,毎日東,中,西部版9/30）

9/27　小栗哲郎展於静岡松坂屋（-10/2）。（静岡9/26,27,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/30）

9/　杉田充・望月邦昭・佐野博明三人展於静岡幸文堂（-10/2）。（静岡9/27）

9/　行動美術8人展於静岡谷島屋書店（-10/3）。（静岡9/27）

10/ 1　太田利三展於東京カドー画廊（-7）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/23）

10/ 1　後藤清吉郎「ふるさと百話第10巻を読む」（静岡10/1）

10/ 1　漆畑和代習作展於静岡扇子屋（-10）。（朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/30,静岡10/1）

10/ 2　彫金グループリアルト展於静岡ガスサロン（-7）。（静岡9/27）

10/ 3　奥村英夫個展於静岡産業会館（-8）。（静岡10/1,朝日静岡版10/3）

10/ 4　「わが青春の日々（3）静岡商業高校③」北川民次に言及。（毎日静岡東,中,西部版10/4）

10/4　松林トミ夫個展於静岡松坂屋（-8）。（静岡9/27,10/1,4,5,中日静岡版9/28,毎日東,中,西部版9/30）

10/ 4　新槐樹社静岡支部第15回展於県民会館（-10）。（静岡9/27,10/14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版9/30,毎日東,中,西部版10/7,読売静岡版10/7）

10/ 5　第1回日伯美術展於熱海美術館（-12）。（朝日伊豆岳南10/4,静岡10/6,毎日東,中,西部版10/6）

10/ 5　鈴木貞夫個展於浜松遠鉄（-10）。（静岡10/4,朝日遠州版10/4）

10/　九人会写真展於県民会館（-11）。（静岡10/4）

10/ 7　創元会浜松支部展於浜松浜松美術展示社（-14）。（静岡10/4,11,朝日遠州版10/6）

10/ 8　曽宮一念水墨淡彩展於浜松画廊（-20）。（朝日遠州版10/6,日経静岡版10/6,静岡10/11,18,読売静岡版10/14）

10/ 9　鳩巣会近況。（静岡10/9）

10/ 9　長谷川安信・田辺宏二人展於浜松市美術館（-14）。（静岡10/4,11,読売静岡10/7,朝日遠州版10/9）

10/10　井田恵子展於清水戸田書店(-16)。(朝日静岡版10/10,静岡10/11,読売静岡版10/14,中日静岡版10/15)
10/10　森田茂展於静岡産業会館(-14)。(日経静岡版10/6,読売静岡版10/7)
10/　伏見春信日本画展於静岡産業会館(-14)。(静岡10/11)
10/　野中弘士個展於浜松松菱(-16)。(静岡10/11)
10/　三輪雅章展於浜松西武(-17)。(朝日静岡,遠州版10/13)
10/16　堤達男《**鈴木梅太郎胸像**》除幕式。(静岡4/7,10/17*,毎日静岡版9/27*,11/5,読売静岡版10/17*)
10/16　海野光弘版画小品展於静岡ガスサロン(-21)。(朝日静岡版10/13,読売静岡版10/14,静岡10/18)
10/17　原米洲人形展於新静岡センター(-22)。(読売静岡版10/14,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/15)
10/17　緑青会展於浜松元城アートギャラリー(-21)。(朝日静岡,遠州版10/13,読売静岡版10/14,中日静岡版10/15静岡10/17,18)
10/18　ジョルジョ・ルオー・リトグラフ展於静岡松坂屋(-23)。(朝日伊豆岳南,静岡版10/15,静岡10/18)
10/　櫻井琴風書展於静岡松坂屋(-23)。(静岡10/17,18)
10/20　萩萩月[萩あい]自伝出版。(毎日静岡版10/24)
10/21　白井佳夫《至誠》除幕式於下田小学校。(静岡10/22)
10/21　長島伊之助於浜松ナカムラ画廊(-27)。(静岡10/18,25,朝日静岡,遠州版10/20,中日静岡版10/22)
10/22　大光隆小品展於磐田市民美術館(-11/4)。(朝日静岡,遠州版10/15,20,中日静岡版10/22,29)
10/23　獅子吼真逝去。(静岡S49.10/29,県美連会報no.12)
10/23　澤田政廣展於東京日本橋三越(-28)。
10/25　第1回静松会十人展於静岡松坂屋(-30)。鈴木満他(静岡10/22,朝日伊豆岳南,静岡版10/27,読売静岡版10/28)
10/26　長谷川富三郎展於富士パピー(-30)。(静岡10/25)
10/　加治杏子展於静岡ガスサロン(-11/4)。(静岡11/1)
11/ 1　第5回日展於東京都美術館(-12/6)。大村政夫《碧い空》和田金剛《蒼の流》新入選者。(毎日静岡版10/26,27,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版10/26,読売静岡版10/26,中日静岡版10/27)
11/ 1　斎藤重司油絵展於清水戸田書店(-6)。(朝日伊豆岳南,静岡版10/31,静岡11/1,読売静岡版11/4)
11/ 1　杉山照治・杉山瑛子展於静岡谷島屋書店(-6)。(朝日静岡,遠州版10/31,読売静岡版11/1,静岡11/5)
11/ 1　杉村孝野外彫刻展於藤枝白井園(-20)。(郷土11/10,毎日東,中,西部版11/11)
11/　遠藤文展於沼津竹村画廊(-8)。(中日静岡版11/5)
11/　水島裕日本画展於静岡松坂屋(-6)。(静岡10/31,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/3)
11/　池田満寿夫石版画展於浜松松菱(-6)。(静岡11/1,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/3,中日静岡版11/5)
11/　中山晶展於焼津ブービィ(-30)。(中日静岡版11/5,12,読売静岡版11/11,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/17)
11/ 2　堤達男《**塚口勇作胸像**》除幕於清水静柑連事務所。(静岡10/31,読売静岡版11/6)
11/ 2　瀧下妙子・清水勝則展於静岡西武(-7)。(静岡11/1)
11/ 2　ボナール展於浜松西武(-14)。(毎日東,中,西部版10/9,12,23,24,26,27,30,31,11/1,2,3,5,13,静岡版11/1,静岡10/31,11/8,朝日遠州版10/31,11/1,中日静岡版11/2)
11/ 2　県善三郎旅のスケッチ展於浜松現代美術展示社(-11)。(読売静岡版10/28,朝日遠州版10/31,11/6,静岡11/1,8,中日静岡版11/5)
11/ 3　《健児の像》除幕式於松崎町岩科小学校。(静岡11/4)
11/ 3　志賀旦山[福太郎]、県文化功労者表彰。(静岡10/26,読売静岡版10/26,中日静岡版10/26,沼津毎日10/27,沼津朝日11/8)
11/ 3　鈴木福富、勲六等旭日賞受賞。(静岡11/3,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/3)
11/　大木克哉写真展於静岡ガスサロン(-11)。(静岡11/8,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/10)
11/　伊能洋ヨーロッパの旅展於浜松元城アートギャラリー(-13)。(静岡11/8,中日静岡版11/12)
11/ 5　鈴木満新作展於東京兜屋画廊(-11)。
11/　青野裕彦展於清水銀座会館(-8)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/3,毎日東,中,西部版11/4)
11/ 9　鈴木国威展於沼津西武(-14)。(中日静岡版11/5)
11/ 9　小山勇個展於浜松市美術館(-14)。(朝日遠州版11/6,静岡11/8,中日静岡版11/12)
11/　吹田文明版画展於清水銀座会館(-16)。(朝日静岡版11/15)
11/11　オディロン・ルドン版画展於浜松市美術館(-12/2)。(中日静岡版10/31,11/4,6,7,8,9,10,11,12,14,15,16,17,18,19,20,21,22,23,25,12/3,静岡11/8,12,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/10,読売静岡版11/11,毎日東,中,西部版11/25)
11/12　青木洋子個展於東京ときわ画廊(-17)。(沼津朝日11/10)
11/13　「デパートの絵画セール」(読売静岡版11/13)
11/13　高柳千賀子個展於静岡ガスサロン(-15)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/10,中日静岡版11/12,静岡11/15,読売静岡版11/15)
11/　清水耕作個展於浜松遠鉄(-19)。(静岡11/15,中日静岡版11/19)
11/14　県芸術祭第13回於県民会館・産業会館・新静岡センター(-18)。審査員:笹岡了一,利根川光人,晝間弘、金丸重嶺、伏見重雄、長嶋泰典、杉浦茂、永井鉄太郎、山口源、宇野雪村、嶋谷自然、鞆谷繁夫。(静岡11/8,14,15,17,18,12/13,9/27,毎日東,中,西部版11/14,中日静岡版11/14)
不正入選問題、実行委員辞任。(読売静岡版11/14,15,16,30,12/2,毎日静岡版12/3)
展示ミス、三氏作品撤回。(静岡11/17,1812/13,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/19)
11/15　風土第12回展於沼津ギャラリーほさか(-20)。(沼津毎日11/10,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/10,毎日東,中,西部版11/11,中日静岡版11/12)
11/15　神近昭個展於沼津天心堂(-21)。(中日静岡版11/12,静岡11/15,沼津朝日11/16)
11/15　池田正司・八木昌一小品展於静岡幸文堂(-20)。(朝日静岡版11/13)
11/　竹村忠一郎油絵展於静岡松坂屋(-20)。(静岡11/14)
11/18　県美術家連盟ゼミ於県民会館。講師:斉藤真一。(県美連会報no.12)
11/18　相生垣瓜人新作展於浜松谷島屋(-25)。(毎日静岡東,中,西部版11/8,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/17)
11/19　落合英男個展於静岡吉見書店(-25)。(静岡11/15,22,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/17)
11/　白虹会作品展於沼津竹村画廊(-25)。(沼津朝日11/25)
11/　曽宮一念展於東京文藝春秋画廊(-24)。(朝日11/24)
11/20　中野謙二漆器展於静岡ガスサロン(-26)。(静岡11/15,19,22,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/24)
11/20　佐野静恵水墨画展於静岡扇子屋(-30)。(静岡11/19,26,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/24,毎日東,中,西部版11/25)
11/21　写実派協会展於県民会館(-30)。(静岡11/15,22,29,朝日伊豆岳南,静岡版11/21)
11/21　県下水彩画作家近作展於県民会館(-12/6)。(静岡11/15,22)
11/21　第28回行動美術浜松展於浜松市美術館(-27)。(静岡11/15,22,毎日東,中,西部版11/18,朝日遠州版11/18)
11/22　霜晨会日本画展於静岡松坂屋(-27)。(静岡11/21)
11/22　中島清之・中島千波展於静岡永田画廊(-26)。(日経静岡版10/6,読売静岡版11/22)
11/22　井上市三郎スケッチ展於浜松松菱(-27)。(静岡11/21,22,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版11/20)
11/23　青木利津子小品展於静岡ギャラリー春野(-27)。(朝日静岡版11/20,中日静岡版11/22,静岡12/3)
11/23　永瀬義郎版画展於沼津西武(-12/5)。(中日静岡版11/19)
11/　後藤清吉郎近況。(静岡11/24)
11/25　ベルナール・ビュフェ美術館・井上靖文学館開館。(沼津朝日S47.7/29,S48.12/2,静岡11/24,25,26,12/3,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版S47.9/20,S48.11/24,S50.1/18,朝日3/2,毎日東,中,西部版11/16,26,読売静岡版9/25,11/24)
11/25　堤達男《**徳川家康像**》駿府公園。(中日静岡版4/2,5/8,27,11/26,S49.1/3*,静岡5/8,6/26,30,11/15,15,23,26,毎日静岡版11/26*,読売静岡版11/26*)
11/27　豊島春彦展於清水戸田書店(-27)。(朝日静岡版11/19)
11/29　川島浩写真展於県民会館(-30)。(朝日静岡版11/28)
11/29　描かれた幕末明治展於静岡谷島屋書店(-12/4)。(毎日静岡版11/30,静岡12/3)
11/　斎藤磐・村田収・樽松貞雄展於静岡ガスサロン(-12/2)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/1,読売静岡版12/2)
11/　片山敏子・山田のり子展於静岡ピカソ(-12/4)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/1,毎日東,中,西部版

静岡近代美術年表稿　昭和戦後編 8

12/2,読売静岡版12/2)
11/29　成瀬憲油彩画展於沼津ギャラリーほさか(-12/5)。(朝日伊豆岳南版11/27,沼津朝日11/29,静岡11/29,毎日東,中,西部版12/2)
11/29　粛祭宝日本画展於静岡松坂屋(-12/4)。(静岡11/22,29)
12/ 4　獅子吼真遺作展於静岡ガスサロン(-9)。(静岡12/3,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/8)
12/ 6　小野具定素描展於静岡松坂屋(-13)。(静岡11/29,12/5,6,朝日静岡版12/5,読売静岡版12/9,中日静岡版12/10)
12/　ピカソ描かれた人展於静岡ギャラリー春野(-19)。(静岡12/6,13,毎日東,中,西部版12/16)
12/ 7　上田みち江・松葉一宏・滝川まゆみ三人展於沼津竹村画廊(-9)。(沼津毎日11/27,静岡11/29,12/6,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/8)
12/ 8　「丹羽章陽《葛》名筆紙上展」(郷土12/8)
12/ 8　県現代日本画展於県民会館(-23)。(静岡12/6, 9, 13,20)
12/　杉村敏男ペーパークラフト展於静岡ガスサロン(-16)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/15)
12/　増田大雩展於静岡吉見書店(-16)。(朝日静岡版12/15)
12/　饗場二郎油絵展於浜松市美術館(-16)。(静岡12/13,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/15)
12/12　高野良之助展於静岡産業会館(-17)。(静岡12/6,13)
12/　川端政雄展於清水戸田書店(-18)。(毎日東,中,西部版12/16,朝日静岡版12/15)
12/13　伊藤勉「73年の美術」(静岡12/13)
12/14　静粋会第2回展於静岡西武(-19)。(読売静岡版12/13,16)
12/　池田正司・八木昌一展於静岡幸文堂(-20)。(中日静岡版12/17)
12/ 15　中村宏《機甲本イカルス》展於東京紀伊国屋画廊(-S49.1/13)。
12/　平井俊男展於清水東京銀行清水支店・三茶郷(-年末)。(静岡12/17)
12/18　澤田政廣、熱海市名誉市民に推される。(伊豆毎日12/18,静岡12/19,毎日東部版12/19,朝日伊豆岳南版12/19,読売静岡版12/19)
12/18　国府会展於浜松市美術館(-23)。(朝日遠州版12/16)
12/19　アート・ナウ・グループ大芸術不毛展於浜松市美術館(-23)。(静岡12/13,朝日遠州版12/17)
12/20　鈴木雨竹書作展於沼津ギャラリーほさか(-25)。(沼津朝日10/27,12/20,沼津毎日12/15)
12/20　北村修治写真展於清水戸田書店(-25)。(朝日静岡版12/18)
12/20　徳谷吉晃展於静岡ギャラリー春野(-29)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/16,静岡版12/19)
12/21　ヨーロッパ巨匠名作展於静岡吉原市民会館。(静岡12/13,20,21)
12/21　ピカソ版画展於富士十字屋(-24)。(静岡12/21)
12/22　「大久保一丘」(郷土12/22)
12/26　芹沢晋吾水墨淡彩展於沼津ギャラリーほさか(-30)。(沼津朝日12/21,朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/25)
12/26　現代美術講座於県立中央図書館。講師:斉藤司郎。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/24)
12/　望月宏信写真展於清水戸田書店(-31)。(朝日伊豆岳南,静岡,遠州版12/29)
12/　江崎武男個展於静岡ブービィ(-31)。(静岡12/21)
12/　北川民次『バッタの哲学』刊行。(静岡S49.2/18)

地域の文化財の価値と魅力を広げ深める展覧会事業の具現

ー「みほとけのキセキー遠州・三河の寺宝展ー」の「展示」と「広報」の事例からー

浜松市美術館　島口 直弥

1 はじめに

浜松市美術館が開館50周年の節目を迎えた令和3年、地域の芸術や歴史・文化に根差した展示の可能性を模索する中で注目したのが、遠州地域の古刹に伝わる仏像である。遠州地域でその制作を平安や鎌倉、南北朝時代にまで遡る仏像の中には、各時代の仏教彫刻の潮流を反映したものや慶派や院派等の有力仏師が制作したことが判明している基準作も存在し、その芸術的・文化的な価値が認められるものも少なくない。そこで、浜松市の摩訶耶寺、方広寺、岩水寺、長楽寺、湖西市の応賀寺、袋井市の西楽寺に、遠州地域と文化的なつながりの強い愛知県豊橋市の普門寺を加えた計7か寺の協力を得て、重要文化財の仏像10躯を含む地域ゆかりの仏教文化に関わる文化財を一堂に展示した「みほとけのキセキー遠州・三河の寺宝展ー」（以下「みほとけ展」）を開催した。

みほとけ展は、浜松市美術館開館50年で開催された初の仏像展であり、遠州・三河地域の仏像に焦点を当てた展覧会である。これまでこの地域の仏像が網羅的に紹介される期会は多くなかったこともあり、仏像鑑賞の経験が少なく、地域の優れた仏像の存在を知らない来館者が多いことも予想された。そこで、仏像の価値と魅力を広げ、来館者に仏像鑑賞の楽しさや醍醐味を味わって頂くために、平易で分かりやすい解説を行い、造形的な美しさや実物ならではの迫力を引き出す構成と展示を工夫する必要があると考えた。また、同時に、展覧会の開催自体に注目を集め、美術館へ足を運んでもらうための広報の工夫も必須であると考えた。

本論では、地域の文化財の価値と魅力を広げて深めるための、展覧会事業の取り組みについて、みほとけ展における展示と広報の事例をもとに紹介する。加えて、取り組みの成果と課題を、来館者アンケートの数値や内容、TwitterやFacebook等の各種会員制交流サイト（以下「SNS」）へのみほとけ展に関する書き込みを分析して検証する。

2 展示における取り組み

1）平易かつ明瞭な展示構成

①尊格ごとの展示

仏像は、主に悟りを開いた姿の「如来」、悟りを開くために修行中の「菩薩」、救いがたい人々を強い力で導く「明王」、仏教を外敵から守る「天部」に分類することができる。みほとけ展の第1展示室では、仏像を尊格の四分類に則して配置することとした。ただし、「①如来」、「②菩薩」、「③明王」、「④天部」という序列通りの配置ではなく、敢えて「④天部」、「②菩薩」、「③明王」、「①如来」という順序とした。（図1）「如来」と「菩薩」は穏やかな優しい表情、「明王」と「天部」は激しい怒りの表情（忿怒相）を示す仏像である。表情の異なる仏像を交互に配置し、展示に変化と起伏をつけ、来館者を飽きさせない構成となるように配慮した。

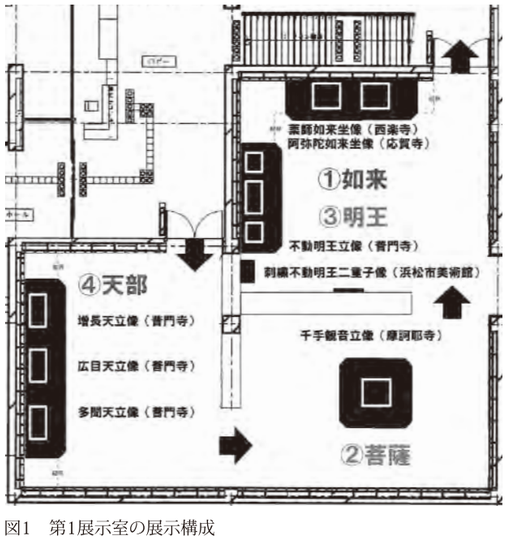


図1　第1展示室の展示構成

また、「天部」を展示室入口付近に配置することで仏教の世界の守護神としての役割があること、「如来」を最後に配置することで人々が最終的に辿り着きたい悟りを開いた姿であることを示した。さらに、「明王」と「如来」を隣り合わせにすることで、「如来」が優しく諭すだけでは救いきれない愚かな人々に対し「明王」に化身して厳しく導くこと（教令輪身）を示すようにした。

展示構成の意図は簡易解説を掲げ（図2）、来館者に仏像に関する基本的な知識と鑑賞を楽しむための視点を明示した。



図2　展示構成の意図を示す簡易解説

これらの試みについて、「尊像の意味を押さえた分かりやすい展示はこれまでは案外なかった」、「仏像の展示順にわくわくし、楽しかった」等の声があがった。平易で明瞭な展示構成によって、仏像を鑑賞するうえでの知識を無理なく示すことができた成果といえる。また、「子供用解説がよかった」、「豆知識を示していてよい」との声もあり、簡易解説が幅広い層の来館者に好評だった。

一方、限られた出陳数の中から尊格ごとに仏像を選択することには限界があった。「菩薩」は千手観音像、「明王」は不動明王のみの展示となり、他の尊像については、諸事情で出陳が叶わなかった仏像の写真パネルに頼らざるを得なかった。一部来館者からは出陳数の少なさを指摘する声もあがり、数多くの仏像を鑑賞したいという来館者のニーズとの兼ね合いが課題となった。

② 制作年代を追った展示

第2展示室では、仏像を制作年代順に配置した。ただし、仏教彫刻の潮流は、時代で歴然と区切られるものではない。仏教文化が都から全国へと伝播する過程で、複数の時代の特徴を併せ持つ仏像が存在する点に留意が必要である。

西楽寺の阿弥陀如来像（図3）は、穏やかで端正な顔立ち、細かく整えられた螺髪、浅く流麗な衣文の表現から、平安時代後期に流行した定朝様式の特徴を示す。しかし、眼には鎌倉時代に流行した玉眼が嵌入されている。玉眼は像の写実性を高める技法で、平安時代後期の作とされる西楽寺像の玉眼が制作当初のものとすれば貴重な事例である。みほとけ展では、この西楽寺像を、定朝様式を示す彫眼像である普門寺の阿弥陀如来像（平安時代後期・図4）と、慶派仏師・運覚によって制作された裸形着装像である岩水寺の地蔵菩薩像（鎌倉時代・建保5年〔1217〕）の写真展示の間に配置し、彫眼から玉眼への技法の変遷を示した。



図3　阿弥陀如来像（西楽寺）



図4　阿弥陀如来像（普門寺）

長楽寺の馬頭観音像は、起伏の富んだ面相部、炎髪や八臂の力強さ、深い衣文の彫り等から、鎌倉時代の作例と考えられる。一方、やや角ばった面部の輪郭と広い肩幅で箱を積んだように見える頭体幹部、複雑で柔らかく折り重なるように表現された脚部の衣文の表現には、南北朝時代の潮流が垣間見える。そこで長楽寺像は、応賀寺の毘沙門天像（鎌倉時代・文永7年〔1270〕・図5）と院派仏師の院吉・院広・院遵作の方広寺の釈迦如来像（南北朝時代・観応3年〔1352〕・図6）の間に配置し、鎌倉時代から南北朝時代への過渡期を示した。



図5　毘沙門天像（応賀寺蔵）



図6　釈迦如来像（方広寺蔵）

地域の文化財の価値と魅力を広げ深める展覧会事業の具現ー「みほとけのキセキー遠州・三河の寺宝展ー」の「展示」と「広報」の事例からー

時代によって異なる作風や様式を比較することは仏像鑑賞の醍醐味の1つである。各時代を象徴する仏像の展示で、その違いを来館者に明確に示すことと同時に、西楽寺像と長楽寺像の展示によって、時代で分断されることのない仏教文化の伝播と受容の様相を示すことができた。

一方、制作年代ごとの展示について、その判断は研究者によって依然として見解が分かれる。西楽寺像の玉眼については、制作当初のものであるか後補であるのか、また、後補であったとしても当初の在り方を継承したものなのかが議論となる。展示に向けた調査研究の過程で、可能な限りの実地調査を行い、判断の精度を高めることはもちろん、複数の研究者の知見をもとに、あらゆる可能性を検討したうえでの慎重な判断が求められる。ただし、展示を通して見出された新知見をもとに判断を変更する柔軟さも忘れてはならない。

2）仏像の魅力を引き出す展示

① 仏像の迫力・存在感を堪能する広い展示空間

仏像の展示では、衣や臂等の延長線上の空間を広く保つことで、文化財的価値に留まらない崇高かつ霊的な雰囲気の演出が可能となる。みほとけ展では、展示空間を広くとり、仏像と仏像の間隔を空け、全方向から鑑賞可能なアイランド式展示を試みた。（図7）



図7　千手観音像（摩訶耶寺蔵）のアイランド式展示

摩訶耶寺の千手観音像（平安時代中期）は、展示空間の中央に設置した展示台上に展示しつつ、江戸時代の後補である光背は取り外した。これにより、寺院では鑑賞できない背面の鑑賞が可能になった。摩訶耶寺像は、87年ぶりの本格修理の過程で、脇手の掌の1つから眼が発見された。（図8）仏像を全方向から鑑賞可能なアイランド式展示で、脇手の



図8　千手観音像に関する記事（中日新聞・令和3年3月17日）

眼が見られる正面はもちろん、脇手が本体へ挿込まれる様子が確認できる側面、一木造に起因する頂上仏面から脚部まで滑らかに連続する造形の一体感や平安時代中期の仏像ならではの腰周り女性的な括れ等を確認できる背面と、摩訶耶寺像の多面的な魅力を提示することができた。

仏像の展示間隔を十分に確保したことについて「品数を絞って1躯ごとに集中させる方向性が素晴らしい」、「広い空間に1躯の千手観音が立つ姿に感動した」等、肯定的な声が多く上がり、空間を意識した展示の効果が表れた。特に前述した千手観音像のアイランド式展示と、普門寺の釈迦如来像と阿弥陀如来像の展示方法は、背面や側面等、寺院では鑑賞が叶わない部分の鑑賞が可能になった点が評価された。

一方、限られた展示スペースでこの展示方法を行うには、出陳数を絞らざるを得ない現状がある。出陳数の確保と展示空間の確保のバランスを意識した展示構成のさらなる検討が必要である。

②表情や造形美を際立たせるライティング

前述したように、仏像と仏像の空間を確保するためには、展示する作品数を絞り込む必要が生じる。摩訶耶寺の千手観音像のアイランド式展示は、展示室内の一区画に1躯の展示であり（図1参照）、展示空間の「間」が保てるかを懸念する向きもあった。こうした懸念を払拭するため、ライティングによる仏像の魅せ方の工夫で、仏像の表情、造形的な美しさや迫力を際立させることに注力した。

展示室の壁はすべて黒布で覆い、展示台もすべて黒色のものを用意した。LEDライトは仏像のみを照らすように調整し、暗闇に仏像1躯1躯が浮かび上がるように演出した。また、仏像の本来の表情を損なう過剰な陰影の表出を防ぐ照射角度、彫刻痕の消失を防ぐ適度な照度等にも配慮した。さらに、仏像の背後にカラーバックパネルを設置し、仏像そのものの存在感と迫力を引き立てた。彫刻の延長空間を生かした露出展示と、仏像の表情、造形的な美しさを際立たせるライティングの相乗効果で、仏像1躯1躯と対峙し、その魅力を存分に堪能できる展示空間が実現した。（図9）



図9　第2展示室の展示空間

ライティングについて、「暗い背景と照明がよい」、「暗い空間に浮かび上がる仏像がインスタレーションのよう」等の反応があり、仏像の魅力を引き出す意図が伝わったものと考える。

ただし、寺院での安置状況下でのライティングの照度が高めに設定されている場合、それと比較して物足りなさを感じるという声があった。方広寺の釈迦如来像、文殊菩薩像、普賢菩薩像は、衣文に盛り上げ彩色が残る点が特筆されるが、胡粉によるこの技法は、高い照度では鑑賞しづらくなる。このことを踏まえ、方広寺像は照度を落として展示したが、寺院でのライティングと比較すると、華やかさに欠ける点は否めなかった。そこに院派仏師による作例特有の俯き加減の姿勢も重なり、来館者にやや暗い印象を与えたのかもしれない。

また、キャプションの文字の読み取り辛さや足元の不安等の側面を含め、展示室内が暗すぎるとの声が一定数あった。展示物の魅力を最大限に引き出すことと、それに伴う多面的な課題との間に折り合いを付け、より多くの来館者の満足度を高められるか、検討の余地があろう。

3 広報における取り組み

1）展覧会会期前の主な取り組み

①仏像入門講座の開催

みほとけ展の事前学習会と位置付けた「仏像入門講座」を引佐協働センターとみをつくし文化センターにて開催した。（図10）みほとけ展の趣旨の説明、出陳予定の仏像をもとにした尊格や制作時期を見分けるクイズ等を通して、展覧会をPRすることはもちろん、仏像鑑賞の楽しさや地域の文化財の存在を周知することに重点を置いた。みをつくし文化センターでの講座では、応賀寺住職・道家成弘氏、長楽寺庵主・吉田真譽氏をゲストに迎え、各寺院と仏像の紹介、みほとけ展出陳に向けた考えや思いをお話し頂いた。



図10　みをつくし文化センターでの講座

2か所で開催した仏像入門講座は、参加者募集開始後すぐに定員に達した。みをつくし文化センターでの講座は、定員の倍に当たる100名近い応募があり、遠州・三河地域の仏像への関心やみほとけ展への期待の高さが伺えた。実際、みほとけ展来館者の中には、講座参加者も多く、講座が鑑賞に役立ったというSNSへの書き込みも見られた。

②地元鉄道会社とのタイアップ企画

みほとけ展出陳寺院の多くが、天竜浜名湖鉄道の沿線に位置することから、列車に仏像のヘッドマークを掲げた「みほとけ号」を運行した。（図11）これは天竜浜名湖鉄道沿線住民への地域の貴重な文化財の存在の周知、それらをもとに展覧会が開催されることの告知を目的としたものである。「みほとけ号」の運行情報は、天竜浜名湖鉄道ホームページで公開し、鉄道利用者や鉄道愛好家等によるSNS等での情報拡散も視野に入れた。ヘッドマークには浜松市出身のイラストレーター・安達えみ氏デザインの仏像キャラクターのイラストを起用した。

併せて、1日フリー切符「みほとけの汽笛」を天竜浜名湖鉄道各駅で販売した他、安達えみ氏デザインの仏像イラ

ストをもとに限定御朱印を作成し、みほとけ展出陳寺院で授与した。この御朱印は各寺院でデザインが異なり、天竜浜名湖鉄道の1日フリー切符「みほとけの汽笛」を寺院に提示することで入手可能とした。(会期中は鑑賞券半券提示も可)



図11　天竜浜名湖鉄道「みほとけ号」「みほとけの汽笛」と御朱印

「みほとけ号」の運行やフリー切符の販売、御朱印の授与は、各寺院への人流を促進した。結果的に多くの鉄道利用者や来館者(会期開始後)が各寺院に足を運び、建築や庭園等、仏像以外の寺院の様々な魅力を味わって頂くことができた。各寺院300枚限定で用意した御朱印は増刷し、天竜浜名湖鉄道のホームページを見て展覧会を知り来館したとの声もあった。展覧会広報と鉄道沿線の観光による地域振興の両面からの取り組みが功を奏した。

2)展覧会会期中の主な取り組み

①YouTubeやSNSを活用した情報拡散

みほとけ展は、コロナ禍の影響で学芸員による展示室での作品解説を自粛したため、解説動画をYouTubeで配信した。(図12)また、通常見られない仏像の輸送・展示風景等の動画も公開し、SNSにリンクを貼ることで拡散を促した。(図13)



図12　YouTubeでギャラリートーク



図13　展示に向けた仏像搬出の様子

SNSでは、展示中の仏像と見所、仏像鑑賞を楽しむためのポイントや豆知識等を紹介し、高頻度での情報発信を心掛けた。

YouTubeの作品解説動画について「初心者に優しい」、「展覧会の振り返りに役立つ」等、好意的な声があがった。仏像輸送・展示動画は「普段見られない場面が見られてよかった」、「ポスターだけでは興味を持てなかったが、展示の様子を見て興味が湧いた」等の声が上がり、動画が仏像や展覧会への興味・関心を高めることにつながったことが伺える。また、投稿した動画情報の発信を含めたSNSによる情報拡散は、遠州・三河地域の優れた仏像の存在やみほとけ展の開催について、より多くの人に周知することにつながったものと思われる。浜松市美術館で令和3年に開催した5つの展覧会のうち、公式Twitterを見て展覧会を知り来館した人の割合はみほとけ展が最も高い。(図14−ア)依然人気の高い歌手・藤井フミヤ氏の個展を上回っている点は特筆され、SNSによる情報拡散の効果が伺える。加えて、静岡県外からの来館者の割合も高いことが伺える。(図14−イ)共催社による新聞広告やテレビCMの効果には依然及ばないものの、新聞やテレビの影響が及びづらい他県からの来館の多さは、YouTubeやSNSを活用したことによる一定の成果であるものと推察される。

令和3年実施の展覧会	ア	イ
みほとけ展	6.6%	25.3%
遠州の民藝展	3.0%	0.0%
藤井フミヤ展	4.9%	21.5%
ボローニャ絵本原画展	0.0%	15.9%
静岡県立美術館名品展	3.1%	5.6%

図14　「みほとけ展来館者アンケート」集計結果(一部)

一方、みほとけ展来館者に占める若年層を含む人(10代〜30代)の割合は、19.5%であり、これらの層がSNS利用率の高い層と仮定した場合、情報拡散が十分に機能したとは言い難い。また、みほとけ展来館者の43.5%を占める60代以上の層の存在も考慮すべきであり、テレビや新聞等の従来の媒体での広報を織り交ぜていく必要がある。

②来館者の写真撮影とSNS投稿の許可

各寺院の理解のもと、仏像の写真撮影と画像のSNS投稿を許可した。(図15)普門寺の林義将住職は、「畏敬の念をもって仏像の姿を撮影・拡散してもらうことで、その存在や価値をより多くの人に知ってもらいたい。文化財を後世へと守り伝えることにつながれば。」と語る。みほとけ展の開催意義は、仏像の存在や価値や魅力を広げ、市民や地域全体の文化的な土壌を醸成することにある。市民や地域全体の文化財への理解を促し、文化財保護の意識や機運を高めることを念頭に、来館者によるSNSを介した情報拡散を促した。



図15　仏像をスマートフォンで撮影する来館者

来館者による仏像の写真撮影とSNS投稿は、前述したSNSによって展覧会を知った人の割合の高さにも影響を与えたものと思われる。各種SNS上には、多くの来館者が展示室内で撮影した仏像の写真が投稿された。来館者のうち約3%は浜松市美術館公式以外の個人によるSNS投稿で展覧会を知り来館していることから、写真撮影の許可とSNSでの情報拡散の相乗効果があったものと思われる。

一方、展示物の写真撮影には、シャッター音やスマーフォン画面の光が鑑賞環境に影響を与えるとの理由で、否定的な声があるのも事実である。SNSの活用や展示物の写真撮影といった新しい試みを進めながらも、多様な考えをもつ来館者への配慮を十分に検討する必要がある。

③来館者の多様なニーズに応じたイベント設定

みほとけ展では、来館者のニーズに対応した多彩なゲストを招いてのイベントを複数開催した。

開幕日には、みほとけ展出展寺院の住職自らが仏像を紹介する「おっさまトーク」を開催した。開幕日は、一般来館者に加え、寺院関係者の来館も多かった。住職によるイベントの設定で、貴重な文化財の出陳に同意いただいた寺院関係者に、寺院の展覧会への主体的な関わりを明示した。(図16)



図16　「おっさまトーク」の様子

みほとけ展監修者の岩佐光晴氏(成城大学教授)、山岸公基氏(奈良教育大学教授)による講演会を設定した。岩佐氏は、みほとけ展に出陳された仏像を含め、遠州地域に定朝様式を示す平安時代後期(12世紀)の作例が多いことの背景について、在庁官人の存在や各地に点在した荘園の経営との関わり等を指摘した。山岸氏は20年近くに及ぶ普門寺や安置される仏像に関する調査経験をもとに、普門寺の仏像の価値を、遠州地域の仏像との関連性も踏まえながら解説し、かつての仏像の安置状況について推察した。(図17)



図17　岩佐氏(左)・山岸氏(右)による講演の様子

みほとけ展に特別協力を賜った上原美術館の田島整氏（上原美術館主任学芸員）と筆者の対談「ガチンコ対談！静岡のみほとけ−東へ西へ−」（本誌表紙）では、遠州地域の仏像と伊豆地域の仏像を、尊格ごとに比較して紹介した。対談後、田島氏の最新の研究成果をもとにした講演にて、より広い視野から静岡の仏像の魅力を紹介した。（図18）

岩佐氏、山岸氏、田島氏によるイベントは、各氏の長年の研究実績に裏付けられたものであり、仏像鑑賞の経験の多い来館者に大変好評だった。

仏像の鑑賞経験の少ない来館者のニーズにも寄り添ったイベントとして、みほとけ氏（仏像大好き芸人）によるトークショーを開催した。（図19）仏像のものまね等、仏像を独自の視点から紹介することで、来館者の仏像鑑賞の敷居を下げ、仏像鑑賞の新たな楽しみ方を提示した。



図18　田島氏による講演


図19 仏像トークショー！

みほとけ氏に加え、田中ひろみ氏（仏像イラストレーター）、久保沙里菜氏（仏像大好きフリーアナウンサー）、筆者による「夜のオンライン仏像トーク」を行った。出陳品の中から互いにおすすめの仏像を紹介し合う「私の推し仏３」をテーマに対談し、その様子をZoomウェビナーで午後9時よりオンライン生配信した。（図20）



図20　夜のオンライン仏像トーク

長楽寺庵主・吉田氏によるワークショップ「仏画を描いてみよう！」を開催した。来館者に自ら表現することを通して、仏教文化に慣れ親しんでもらうことを目的とした。（図21）


図21　仏画を描いてみよう！

みほとけ氏によるトークショーは、みほとけ氏のファン層を含め、若い世代の来館者の姿も目立った。田中氏、久保氏を交えたオンライントークは専門的な知識のみに偏ることなく、仏像の鑑賞に対する敷居高い印象を払拭することに一定の効果があったものと思われる。また、夜の無料オンライン配信で、全国各地からの気軽な参加を促すことができ、展覧会の情報拡散に寄与した。吉田氏によるワークショップは、吉田氏が示した見本を参考に水彩絵の具で簡単に仏画を描き上げることを通して、仏像への慣れ親しみを促すことができた。

これらのイベントは、集客力の反面、当日参加できなかった人、コロナ禍で来館を自粛した人への配慮が必要となることが予想された。対策として、イベントの様子を動画で撮影の上、後日YouTubeでアーカイブ配信することで対応することができた。

④地域の子供たちや学校の教員への普及

みほとけ展はコロナ禍の影響で、小・中学校や高等学校等の団体鑑賞者数が見込めない状況であった。そこで、教員を対象に仏像講座を開催し、地域の仏像の存在を学校、子供たちへ周知したいと考えた。（図22）

仏像講座の開催後、数は少ないものの受講者の教員が勤務校の子供たちを連れて来館する例が見られた。（図23・24）



図22　教員を対象にした仏像入門講座


図23　仏像を鑑賞する小学生

仏像講座での様々な説明は、美術的・歴史的価値とともに仏像の衣装や姿に目を向けて観覧することに繋がり、一つ一つの仏像に興味・関心を寄せることができた。これは、これから社会科で歴史を学んだり図画工作科で地域の身近な美術作品について学んだりする6年生にとって良い学習の機会となると捉え、担任に美術館を訪問するように促した。また、有意義な機会とするには、児童も説明を受けることが大切と考え、入館前に鑑賞の視点を与えてもらった。これにより、児童は許された時間一杯を使って観覧するだけでなく、学校までの道中で仏像について振り返る会話をしていた。実物を見ることで、児童の学びが深まることはもちろん、故郷の貴重な文化財の存在を大切にしていかなければという思いが高まったようだ。

図24　浜松市立追分小学校・村松一彦校長の感想

加えて、展覧会終了後ではあるが、浜松市立北部中学校から奈良・京都への古都研修の事前学習としての仏像講座を、浜松市教育研究会小学校社会科研究部から社会科主任の教員を対象に仏像講座をそれぞれ依頼された。

学校教育との連携を通して、間接的ではあるものの、展覧会終了後も子供たちに地域の文化財の価値や魅力を発信できる機会が与えられたことは、意義深いことである。

4　おわりに

みほとけ展は、28日間で23,000人を超える動員を記録した。会期の短さを加味すると、浜松市美術館における地域の文化財の展示としては、かつてない数字である。展覧会に高い満足度を示した来館者が全体の92.1％（満足：69.3％・やや満足22.8％）と高い水準である点は、展示と広報を総括した成果といえる。

筆者は現在、みほとけ展での成果を土台に、遠州・三河地域に点在する仏像に関する調査研究を継続している。継続した調査研究の成果は、いずれ続編となる展覧会を開催して広く発信したいと考えている。みほとけ展の続編の展覧会が実現した暁には、本論を先行事例とし、地域の文化財の価値と魅力をさらに広げ深められる展覧会事業を目指して、さらなる改善を図りながら取り組みを継続していきたい。

附記

みほとけ展における今回の取り組みは、出陳寺院の皆様よりご厚誼のもと実現できたものである。展示については、岩佐光晴氏、山岸公基氏、田島整氏にお立合いいただき、直接ご指導・ご助言を頂いた。広報については、展覧会共催の中日新聞東海本社とテレビ静岡、展覧会協力の天竜浜名湖鉄道株式会社をはじめ、安達えみ氏、みほとけ氏、田中ひろみ氏、久保沙里菜氏にそれぞれのお立場からご尽力いただいた。文末ではあるが、各氏をはじめ、みほとけ展の実現にご尽力いただいたすべての皆様へ感謝の意を表したい。

板谷房　パリの18年、画風の変遷

板谷房　パリの18年、画風の変遷

駿府博物館　森下 善彦

◆まるで「シンデレラ物語」

1953年（昭和28年）、当時住んでいた清水（現・静岡市清水区）に妻を残し、画業修業のため単身渡仏。物価の高いパリ、用意してきた生活費は1カ月で底をつく。植木鉢のブドウの葉を食べ、公園のベンチで寝ることも。自殺か餓死か。ぎりぎりまで追い込まれ携えてきた妻の肖像画を裂き、数枚の絵を描いた。よろける足で画商を回る。言葉もできず身振り手振りの売り込みは門前払い。最後に行き着いたのはピカソやマチス、シャガールなどを扱う世界的画商の元だった。「実に素晴らしい。全部買いましょう」。世界中の画家が集まるパリで、しかも一流画商に日本人が認められたのは30年ぶり、藤田嗣治（レオナール・フジタ）以来だった。

板谷房のシンデレラ物語である。板谷房は本名・板谷房吉。1923年（大正12年）、福岡生まれ。小倉師範学校を経て、1952年（昭和27年）東京美術学校（現・東京芸術大学）卒業。清水市立第四中学（現・静岡市立清水第四中学）で教鞭を執るも、翌1953年（昭和28年）単身フランスへ渡り、現地で高い評価を得るに至る。

彼の作品を見た人は皆その細密・緻密で手抜きのない描写に魅了される。風景画なら屋根の瓦1枚1枚が、動物画ならその毛並みの1本1本までもが丹念に描かれているからで、魚類や鳥類などまるで図鑑を見ているようだ。女性画は女性の周りに犬や猫、鳥などの動物が配され、背景には建物などの風景が描かれている作品が多い。

板谷房は生前、日本国内で3回の巡回個展を開いている。その国内展の出品作品を中心に画風の変遷を振り返ってみたい。

◆藤田嗣治らと猫展出品の栄

1954年（昭和29年）、板谷房はパリで藤田嗣治らとパリ市主催の「猫の展覧会」への出品を依頼されている。この展覧会によって、「フランスの貴族ネスト・ル・ソーミョーがわざわざ同氏の下宿先に注文に来るなど繁昌ぶりを示しているが、同氏の作品はいままでにパリをはじめ世界の一流画商に合計三百数十枚の作品が買われている」（静岡新聞1955年4月22日夕刊）。猫はその後生涯にわたって描いており、欧米では「猫の画家」とも称される板谷房だが、その出発点はこの猫展であろう。

翌1955年（昭和30年）12月にパリで初の個展。その年に描かれた「夕映え」「夜の曲」「月のセーヌ」「街角」「月」など24点の作品が出品された（静岡新聞1956年1月6日夕刊）とのことである。「夕映え」はパステル調の風景画のようである。「夜の曲」は崩れかけたレンガ塀に腰掛けた少女が横笛を持つ図柄。背景の家々が月明かりに明るく映える。「街角」はバイオリンを持つ少女が路上に坐っている図柄。これも背景の建物が細かく描かれている。このパリでの個展は現地の月刊美術雑誌で「彼のすべての絵にはほのかな光輝と星のまたたきが感じられる。風景画のとくに夜の町の絵が印象的である。その絵の小さなことが詩情を起させる。またこの画家は抽象絵画をもわれわれに示している。この抽象的な絵は各個の人体が二ツの平行した円い一対のものとして表現されている。非常に洗練された芸術で、テクニックのうまさと精神的なものを示す大きな芸術家である」（静岡新聞1956年1月20日夕刊）と評されている。



挿図1　パリでの初個展出品作　右から「夕映え」「夜の曲」「街角」

◆風景画中心に日本国内で初の巡回個展

日本国内での初の個展は1956年（昭和31年）暮れから1957年（昭和32年）初めにかけて開かれている。この国内での巡回展は「板谷房パリー風景油絵展」と題され、40点の作品が東京三越、静岡松坂屋、福岡大丸の各地デパートで展示されている。「ムーランルージュの夜」「ゲーテ街の夜」「モンパルナスの夜」「セーヌ河の夜」「オルデアン附近」「パリー裁判所」「イタリー広場附近」「クリスチヤン・デイオールの店」「サクレ・クール寺院」「裏セーヌ」「雪のセーヌ」「モンマルトル」「ピエル・フオンの古城」「エツフェル塔」「ノルマンデーにて」「シヤールトルにて」…。この時の風景画は重厚な感じで、ピカソが提唱したキュビズムの影響か、描かれた建物はデフォルメされている。これらの風景画に交じって「赤毛の少女」「街の少女音楽師」「笛」といった少々暗い感じの女性画が出品されている。「蝶」（1956年作）はサナギから成虫に羽化する蝶のように変身した幻想的な女性画。



挿図2　国内第1回巡回展の出品作品一覧リスト



挿図3　国内第1回巡回展の出品作　右上から時計回りに「ムーランルージュの夜」「オルデアン附近」「赤毛の少女」「ゲーテ街の夜」「街の少女音楽師」「蝶」「笛」

◆風景画から動物画、女性画へ

1965年（昭和40年）の日本国内2回目の巡回展は女性画「爪弾き」（1964年作）がフランス官展ル・サロン・デ・ザルティスト・フランセ金賞を獲得したことを記念して「フランス官展金賞受賞記念 板谷房画伯油絵展」と題され、東京の日本橋三越、静岡松坂屋、大阪阪急などの各地デパートで開かれている。出品作は約40点。大部分は女性画と動物画で風景画は12点。25号の傑作「爪弾き」をはじめ、絵画の前で蝶と戯れる猫を描いた「闖入者」「蝶を追う猫」「シャム猫」「裸婦」「ブルターニュの少女」=1972年（昭和47年）の遺作展図録では「アルザスの娘」との作品名で掲載。どちらが正しいか不明=など。



挿図4　国内第2回巡回展の出品作「爪弾き」



挿図5　国内第2回巡回展の出品作　右「闖入者」、左「裸婦」

板谷房　パリの18年、画風の変遷

◆試行の末に肉感的女性画への変貌

1968年(昭和43年)秋に開かれた日本国内の3回目の巡回展は静岡や東京、名古屋の松坂屋、大阪、福岡で開かれ、静岡新聞社所蔵・駿府博物館寄託の大作「平和のための宴」(1967年作、ル・サロンのロサ=ボヌール金賞受賞)など35点が出品された。この巡回展になると展示の中心は女性画となる。それも「爪弾き」以前の少々デフォルメされたゴシック風な女性とは違い、みな肉感的になっている。

幻想的かつ肉感的な人魚を描いた「潮の音」(1959年作、アンデパンダン展特選、駿府博物館所蔵)は堀口大学の名訳で知られるフランスの芸術家ジャン・コクトーの短詩「私の耳は貝の殻、海の響きをなつかしむ」を髣髴させる作品。貝殻に耳を当てる人魚の姿が印象的だ。

「金の鍵(千一夜物語より)」(1969年作、個人蔵)はアラビアンナイトを題材にした作品。足枷(あしかせ)をはめられた盲目の少女のために小鳥が金の鍵を持ってきた図柄。金の鍵は「運命の鍵」。アラビアンナイトの中で大臣の娘シェヘラザードが、王に殺されずに千一夜を乗り切るため、毎晩王に聞かせる物語のメタファー(暗喩)となっているようだ。

60号の大作「平和のための宴」は一人の少女を中心に果物の置かれたテーブルの周りに参集する鳥、猫、犬、虎、馬、牛などの動物たちの饗宴を描いている。人間、肉食獣、草食獣、つまりは捕食者も被捕食者も一堂に会する「平和と共存」がテーマになっている。

平安時代の女性たちを描いた絵画の前の裸婦を描いた「朝」(1968年作)は大和絵と油彩画の融合を図ったものか。

ミニスカートの少女と犬と猫を描いた「ミニ・ジュープの少女」(1967年作)や「ローブの少女」(1968年作)、この2枚の絵画を合わせた絵の中に絵と少女が配された「タブローの前」(1968年作、個人蔵)あたりが板谷房作品の中では完成度の高いバランスの良い1枚となっている。亡くなる3年前の作品だが、ほぼ女性画の完成形といえるのではないだろうか。



挿図6　国内第3回巡回展の出品作「平和のための宴」



挿図7　国内第3回巡回展の出品作
右「潮の音」、左「金の鍵(千一夜物語より)」



挿図8　国内第3回巡回展の出品作「タブローの前」

◆師・藤田嗣治の影響、色濃く

板谷房は東郷青児と藤田嗣治を師としている。特に藤田の影響は大きく、板谷房の作品を見た人は「藤田の絵かと思った」と口をそろえる。日本国内では評価があまりされない板谷房であるが、「藤田の亜流」と捉えられてしまっていることに原因があるのかもしれない。エコール・ド・パリの唯一の日本人とされる藤田は、試行錯誤の末に「乳白色の下地」の技法を編み出し、「裸婦」を描くに至る。板谷房は藤田の下で下絵塗りをしていた時期があるとも言われている。とすれば、藤田が秘密にしていた技法を知っていたであろう。

藤田の絵画は画面に亀裂が入りやすいことが知られている。東京藝術大学出版会『藤田嗣治の絵画技法に迫る:修復現場からの報告』によれば、「画面にみられる網目状の亀裂は、柔軟性を失って固くなった地塗層の割れによって生じ…(中略)こうした亀裂の発生は、時間が経つと割れやすくなる結合材を含む組成材が、自然に劣化した結果でもある」という。実は板谷房の油彩画も経年劣化によって、ひび割れ(クラック)が入りやすい。藤田から学んだ下地塗りの技法を踏襲しているのであろうか。

また、「藤田は制作にあたって墨、面相筆、金箔といった日本画材を用い、また日本画でいうところの『付けたて』や『たらしこみ』といった技法に近い表現も試みて」いるという(東京藝術大学出版会『藤田嗣治の絵画技法に迫る:修復現場からの報告』)。

板谷房もまた繊細な貂(てん)の毛でできた日本の面相筆を使ったり、絵画の背景に金箔を貼ったり、いろいろと工夫を凝らしている。彼の肉感的な女性の描き方や下地を薄く塗る手法には、藤田からの影響が見て取れる。だが、藤田からの一番の影響は、試行錯誤を重ね、他の画家が真似することができない独特な技法を駆使する姿勢であろう。

なお、「板谷房」と名乗り出したのは渡仏1年後の1954年1月から。それまでは本名の板谷房吉を静岡新聞の画信(投稿)などで使っている。当初は「Fousa ITAYA」と署名していたが、すぐに「Foussa ITAYA」としている。フランス語の発音に沿ったのであろう。ちなみに藤田嗣治は「Léonard Tsugouharu Foujita」。

結論として板谷房の画風を簡単に概観すると、1953年の渡仏後3年くらいはピカソの影響を強く受けているようだ。その後5年間くらいは「猫の時代」。1950年後半はパステルカラーで描かれた風景画が多くなる。1960年代は「試作の時代」といえそうで、油彩画に日本画の技法などを応用している。1964年の「爪弾き」から女性画が中心になり始める。最終的にたどり着いたのが「肉感的な女性画」といえそうだ。

◇

駿府博物館は2021年に開館50周年を迎えました。それを記念して「名品 天・人・地」と題した所蔵品展を3期にわたって開きましたが、その際に「没後50年 巴里に愛された板谷房」も特別展示したところ、板谷房の奥さん方の甥御さんや教え子の方、中学生時代に個展に行って板谷房に惚れ込んで模写画を描かれている方、それに板谷房と縁の深かったクーポール会館(静岡市葵区紺屋町)などから貴重な絵画をご提供いただき、前期から中期、後期と回を追って充実した展示をすることができました。ご協力くださった皆さまに深く感謝申し上げます。

板谷房は静岡を第二の古里として愛し、パリで成功した後もずっと将来は静岡の丘の上に家を建てて住みたいと夢見ていました。板谷房は忘れ去られるには惜しい画家です。絵画は劣化が激しく、所在もわからなくなっています。没後50年を機に、板谷房という画家の見直し機運が少しでも高まることを願うばかりです。

突撃！となりのミュージアム！ －「学芸員同士でインタビューし合ってみた」篇－（報告）

浜松市美術館（静岡県博物館協会事業推進グループ）　島口 直弥

本協会事業推進グループは、これからのミュージアムの在り方やミュージアムにおける防災等の今日的な課題、さらに作品の梱包・展示、作品調書の取り方等の学芸員が日常の業務で直面する課題に至るまで、幅広い事象をテーマとした研修会を、講演会、シンポジウム、実技・実地研修等、様々な手法で開催してきた。さらに加盟館園に開かれたものとするため、加盟館園から発案できるようプラットフォーム化を図ろうという機運が生まれた。こうした中で、加盟館園の運営や事業、学芸員の取り組み等を、成功例や課題等を含め「ざっくばらん」に共有し合う「気軽」な機会を設けることができないかとの問題提起がなされた。そこで静岡県内の学芸員が「横のつながり」のもと、互いの館についてインタビューし合う場を試験的に設けた。ここでは令和4年1月26日（水）に、沼津市明治史料館に集った4名（写真）の間で話題に上がったことを、ダイジェスト的に紹介する。



右から、土森智典氏（上原美術館主任学芸員）、木口亮氏（沼津市明治史料館学芸員・主査）、植松篤氏（静岡県立美術館上席学芸員）、島口直弥（浜松市美術館学芸員・報告者）

作品や図書の管理方法は？

木：当館はクラウドシステム（I.B.Museum SaaS）で管理していますよ。歴史資料を1度に2000点くらい収蔵することもありますが、資料群を一括登録でき、公開も簡単です。チームで仕事をする上でもデータベースは有用です。

植：書庫も資料がたくさんで、県立図書館に相談したところ、処分も視野に入れるよう助言も受けましたが。

島：当館でも雑誌類を厳選して処分したこともありましたが、大変な作業でしたよ。

土：整理と分類も大切ですね。当館はI.B.Museum2005を使用していますが、将来的な情報公開についてもこうした場で意見交換できればと思っています。

作品の購入・寄贈はどうしてる？

土：現在所蔵する作家の作品を中心に購入しています。設立者も高齢になったので、長期的なコレクション形成を見据えて、当館の成り立ちやアイデンティティ、トーンをしっかり整理しなければと考えているところです。

島：当館の収蔵庫も飽和状態。全ての寄贈の申し出を受けきれないのが現状で、地域ゆかりの作家を中心に少しずつ受け入れています。

植：当館では著名な作家、地域ゆかりの作家の作品の中でも、展示に活用できるもの、既に所蔵するコレクションの色に合うものを収集していますよ。活用が見込まれない場合には辞退しています。

展覧会の決め方は？

植：学芸員同士で提案し合い、予算を加味しながら調整します。分野のバランスや動員の見込みも考慮しています。

島：当館も夏は子供や一般層に訴求できる展覧会を組んでいます。未来を担う子供たちや学生、美術鑑賞に慣れ親しみの少ない方にも美術館の存在やその魅力を広く周知したいです。

木：地域史の展示の腹案がいくつかあります。年に2本企画しますが、定年までに市内全地域制覇できたらな。

土：コレクションの潜在力を引き出す企画展をベースとし、年1回継続調査にもとづく仏教美術の特別展を実施しています。

本企画の詳細は、後日、静岡県博物館協会ウェブサイト「しずはく.net」（https://www.shizuhaku.net/）にて公開予定です。事業推進グループでは、加盟館園の交流を活発化するため、今後も相互インタビューを継続していきたいと考えています。

SNSの活用は？

木：自治体ごとに事情が違いますが、当館は単独のSNSアカウントがありません。

土：当館はある程度責任をもてる主任学芸員が投稿するようにしていますよ。

植：当館の場合、以前はガイドラインに従えば各担当が投稿できましたが、今は回覧をしてからの投稿です。

島：浜松市は柔らかな文章表現も認められ、比較的速やかな投稿が可能です。展覧会情報と併せ美術館周辺情報、時事ネタを投稿すると喜ばれます。美術や展覧会に関する話題よりこちらの方が「いいね」がついてしまうことも。事務方のグループ長と競い合っています。



展覧会の写真撮影は？

土：快適な鑑賞空間を保つために、基本は撮影不可とし、一部可とすることが多いです。SNS投稿を通して美術鑑賞の裾野も広がりますし。

植：当館も昨年の古代エジプト展のように、展示によって、写真撮影を認める場合があります。

島：私も西洋絵画や仏像等、様々なジャンルの展示で写真撮影を可としてきました。しかし、来館者や他の職員から、実物を見ることを重視する立場からの反対意見もありましたね。

木：学芸員も作品の詳細を撮影し、それによって細かな調査も可能になります。一般の方も、展示室内で実物を前に同じことができたら嬉しいでしょうね。

学芸員同士の研修の可能性は？

土：展覧会や研究について、美術、歴史、自然史、科学史等ジャンルを越えて、異なる分野の学芸員・研究者で意見交換する機会があるといいですね。県内で開催された展覧会をテーマに、多分野で振り返りを行うのも刺激的かも。

島：学芸員対象のギャラリートークも聞いてみたいです。今日も木口さんに展示解説して頂き、勉強になりましたし。

木：確かにそういう機会はなかったね。ダメ出しは辛いけれど。

島：ただ、勤務時間に研修に参加したくても、日常の業務に追われ、参加しづらいという声も。

植：多くの方が参加できるようにするためには、やはりオンラインの活用も要検討ですね。

学芸員の仕事の在り方は？

木：仕事を分担することも大事。例えばチラシやポスターのデザインは他の職員に担当してもらっています。

土：それでも電話や来客対応でゆっくり仕事できる時間が取れないですね。

木：休日も何だかんだ学芸員。博物館や美術館に出かけることも多いし。

土：自分の専門と異なる分野の展覧会をみることが面白いですし、刺激になりますよね。

植：私は逆に、休日は仕事を切り離して登山！地形を想像しながら歩くのが楽しいです。

島：でも視点が学芸員的ですね。私は釣り！仕事と無関係の時間にアイデアが浮かぶことも。

木：確かにそういう時間も大切だよね。

展覧会動員とその評価は?

島：地方の博物館は、地域の歴史や文化を紹介することに意義があると考えます。動員だけではないのですが。

植：県立美術館では、専門家による委員会で、展示や研究自体を評価する仕組みが整っていますよ。

木：委員会の構成メンバーが大事。「学識経験者」にどのような人が入ってくるか。市の規則もあり難しいです。

土：来館者数のみで評価するのではなく、展覧会にどのような問題意識や影響力があるかが大切ですね。静岡県博物館協会がそのような評価や議論ができる場になればと思います。

2021年度 静岡県博物館協会　役員会、総会、事業報告

役員会、総会の実施について

今年度もコロナ禍のため、ご参集頂いての開催は不可能だと判断し、役員の方々のご承諾を頂いた上で、書面により開催することとなった。

議案についての事務局案に対し、採決の結果

賛成	69票
反対	0票
採決委任状	2通

これによって今年度の議案は、全て原案通り可決された。
可決された事業計画に沿って、今年度も協会活動は進められた。以下、概略を述べる。

今年度の地域セミナーについて

5月の役員会、総会で可決されたのが、

三島市郷土資料館「三島市郷土資料館ふるさと講座「地域の文化財めぐり」」→¥70,000-
裾野市立富士山資料館「「ぐるりんコンテスト」入選作品集・カレンダーの作成及び配布」→¥50,000-
公益財団法人佐野美術館「宮西達也先生 来館記念イベント」→¥30,000-

これらに加え、秋季地域セミナーとして、

ベルナール・ビュフェ美術館「手で見るビュフェ」→¥70,000-
月光天文台「第25回 宇宙と天文の講演会「微生物研究者になった天文少年」」→¥35,000-

合計5案が採択された。

研修会、講習会について

事業計画として、年間2、3回の研修会や講習会の実施を承認して頂いていたが、コロナ禍により、会員に参集して頂いての事業を実施するのが困難だと今年度も判断された。このため、対面での研修会等の事業を、1つに絞り、可能な実施方法を探ることとした。
それが、2月22日（火）実施の「博物館の動画制作」である。

「なぶんけんチャンネルの動画制作について―「新人研究員 垣中健志のお仕事探訪」ができるまで―」
　馬場基氏・垣中健志氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）
「水族館における動画制作と配信 「ウォットチャンネル」―動画コンテンツを用いた広報と展示―」
　大竹純也氏（浜名湖体験学習施設ウォット）　会場：静岡県立美術館講座室

本講習会は、奈良県や当県に国の蔓延防止等重点措置が適用されたことを受け、講師の方々はオンライン、参加者は会場に参集して実施された。参加者は25名であった。

また、事業を加盟館園にとってより開かれたものとするため、事業のプラットフォーム化を検討している。すなわち、事業推進グループの発案でのみ事業を実施するのではなく、加盟館園からも発案できるよう体制を構築したい。その試みの一つとして、運営や事業等について他館のケースを聞く機会を設け、各館の活動に役立てることを目的として、「加盟館園間インタビュー」を計画し、1月26日（水）、試行的に実施した。

「突撃！となりのミュージアム！」（36、37ページに報告を掲載）
島口直弥（浜松市美術館）、木口亮（沼津市明治史料館）、土森智典（上原美術館）、植松篤（静岡県立美術館）

また、専門分野を横断する加盟館園によるオンライン研究会も計画中である。これら2本のプラットフォーム事業については、継続的な実施を見込んでいる。

（事務局 新田）

2021（令和3）年度役員会、総会の主なスケジュール

5月14日（金）　今年度役員会、総会の資料を、全会員宛に発送。
5月17日（月）～21日（金）　審議期間。
　※ご意見、ご質問はメールかファックスで受付、事務局からの回答はウェブの当協会公式サイトにある会員ページ上の掲示板で行なうこととした。
5月25日（火）～28日（金）　採決期間。
　※28日（金）必着で、「採決の委任状」または「採決用紙」を、事務局宛にお送り頂いた。
6月1日（火）以降 今年度役員会、総会の結果を、会員宛に送付。

（参考）

2021（令和3）年度 事業計画

1 役員会・総会の開催

コロナウィルス感染拡大防止のため、今年度は郵送資料に基づき、協会ウェブ掲示板上での審議とする。
議事：
（1）令和2年度事業報告及び決算
（2）令和3年度事業計画及び予算
（3）令和3年度地域セミナーについて
（4）退会館園について

2 研修会・講習会の実施

今年も対面での開催は無理か。1～3回程度、開催を検討。

3 地域セミナーの開催

今年度採択結果は上述報告参照。

4 講演会等の共催・後援

5 静岡県博物館協会研究紀要 第45号の刊行

6 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

7 東海地区博物館連絡協議会理事会及び総会への出席

※通例、静岡→愛知→山梨→神奈川→岐阜の順に開催している。昨年度当番は神奈川県だったが、同県では昨年度、第68回全国博物館大会が開催されたため、東海地区博物館連絡協議会は岐阜県で開催、神奈川県での開催は今年度の予定。

8 防災事業

9 広報及び情報交換

10 事業推進グループによる事業の推進

・メンバーの任期は2年、2022（令和4）年度末まで。
・事業推進グループ会合は年間4回程度開催。

静岡県博物館協会　研究紀要投稿規程

1. 投稿を受け付ける原稿

（1）内容規定

加盟館園職員が従事している職務（展示・調査研究・保存・教育普及・その他）に関する論文、報告、事例紹介、収蔵品紹介等

※専門分野に関するものに限りません。学芸職員以外の投稿も歓迎します。

（2）執筆者規定

加盟館園職員一人もしくは複数人の執筆によるものとします。複数人による場合、全執筆者の1/3が加盟館園職員であることを条件とします。

※会員活動の報告や論評等で意義が認められる場合、例外を認めることがあります。

2. 入稿規定

（1）原稿の種類

日本語による原稿を基本とします。

（2）入稿の方法

デジタルデータと印字原稿、必要なら図版（ポジ、印画紙写真、デジタルデータ、図面等）等を併せて提出して下さい。
デジタルデータはOSを問いませんが、必ずテキストデータを添付して下さい。図版のデジタルデータはJPEGに統一して下さい。

※万一の場合に備え、原稿提出の際には必ず手元に控えを残しておいて下さい。

（3）分量

ページ数目安（1ページ当たり）			事例報告等（1～4ページ分程度）			事例報告等（1/2ページ分）		
論文	縦書き	写真無しの場合　2,000字	縦書き	写真無しの場合	2,000字	縦書き	写真無しの場合	1,100字
		写真有りの場合　1,600字		写真有りの場合	1,600字		写真有りの場合	900字
	横書き	写真無しの場合　2,000字	横書き	写真無しの場合	2,000字	横書き	写真無しの場合	1,100字
		写真有りの場合　1,600字		写真有りの場合	1,600字		写真有りの場合	900字

（4）文字原稿（印字原稿は次の書式でご提出下さい）

字数（1シート）　A4版　40字×30行

※誌面レイアウト・フォーマットに揃えた入稿も歓迎します。レイアウト見本をご希望の方は、事務局にお問い合わせ下さい。

（5）図版原稿（1ページの版面はA4）

カラー（巻頭図版）　掲載希望があればご相談下さい。
モノクロ　すべて挿図として扱います。

ⓐ カラー図版原稿には、目次用のデータを明示して下さい。
ⓑ 挿図原稿裏面に挿図番号とネームを記入して下さい。デジタルデータの場合は、データ名に明示して下さい。
ⓒ 挿図原稿のコピーもしくは印刷された挿図原稿に、掲載希望範囲を、製版作業の支障にならないよう、明示して下さい。
ⓓ レイアウトや掲載時の大きさの希望がある場合は、その旨注記して下さい。
ⓔ 本文の印字原稿に、挿図番号で挿入箇所を示して下さい。

（6）図版の著作権申請

写真等掲載に関する作品所蔵者・著作権者からの許諾等取得は、執筆者が行なって下さい。なお、当協会紀要は協会ウェブサイトにもアップされます。

（7）執筆者の表示

原稿には氏名・自宅住所および所属機関所在地（それぞれ〒、Tel.、Fax.番号）・部署・役職を明記して下さい。氏名には読み仮名をふって下さい。
成果品である紀要には、氏名と所属のみ記載します。

（8）キーワードの設定

ウェブ上での検索を容易にするため、記事のキーワードを設定して下さい。

3. 原稿の送付先

原稿は、下記宛にお送りいただくか、ご持参下さい。

〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田53-2　静岡県立美術館内
静岡県博物館協会事務局
Tel. 054-263-5857
Fax. 054-263-5742

4. 日程および申込・校正手順

（1）日程（予定）

申込締切　2022年 11月末日
入稿締切　2023年 1月末日
発行予定　2023年 3月末日

（2）申込方法

申込締切までに、下記項目を静岡県博物館協会事務局宛にご連絡下さい。

・執筆者　（複数執筆者の場合は、全員の氏名と所属を明記）
・題名　（仮題で可）
・分量見込（レイアウト見本による全ページ数で表示。図版、表等の希望も含む。）
・縦書き、横書きの希望

※分量は、1本の論文当たり15ページ以内を基本とします。

（3）申込の確認

静岡県博物館協会事務局は、申込締切後2週間以内に、執筆者申込時の分量見込みに基づいて紀要製作の見積もりを行ないます。予算上製作が可能であれば、全申込者に申込通りの分量での執筆が可能である旨を連絡します。予算上不可能な場合は、申込者に対して分量についてのご相談を行ない、ご執筆いただく分量上限を決定します。

（4）入稿の方法及び原稿の掲載

入稿は、上述2の「入稿規定」に従って、上述3の「原稿の送付先」に送付するか、ご持参下さい。4-(3)で示した事情により、実際に入稿した原稿が分量見込みより増えた場合、執筆者に分量を減らしていただくか、当該号での掲載を取りやめることがあります。

（5）校正

入稿締切までに入稿された場合、執筆者は文字校正（図版等を含む）2回を行なうことが出来ます。入稿締切が守られなかった場合は、この限りではありません。

（6）レイアウト

レイアウトはフォーマットに基づき、執筆者の希望を尊重して行ないますが、最終的には静岡県博物館協会事務局が決定します。

5. その他

（1）文責

原稿の内容についての文責は、全て執筆者にあるものとします。著作権や誤植、不適切な表記等の問題について静岡県博物館協会及び静岡県博物館協会事務局は、一切の責任を負いません。

（2）執筆者への成果品割当

執筆者には、30部を贈呈します。複数執筆者の場合、全員分を合わせて90部を上限として贈呈することが出来ます。

（3）抜き刷りの作成

執筆者から希望のある場合、実費をご負担いただくことで、執筆箇所の抜き刷りを作成します。静岡県博物館協会事務局にご相談下さい。